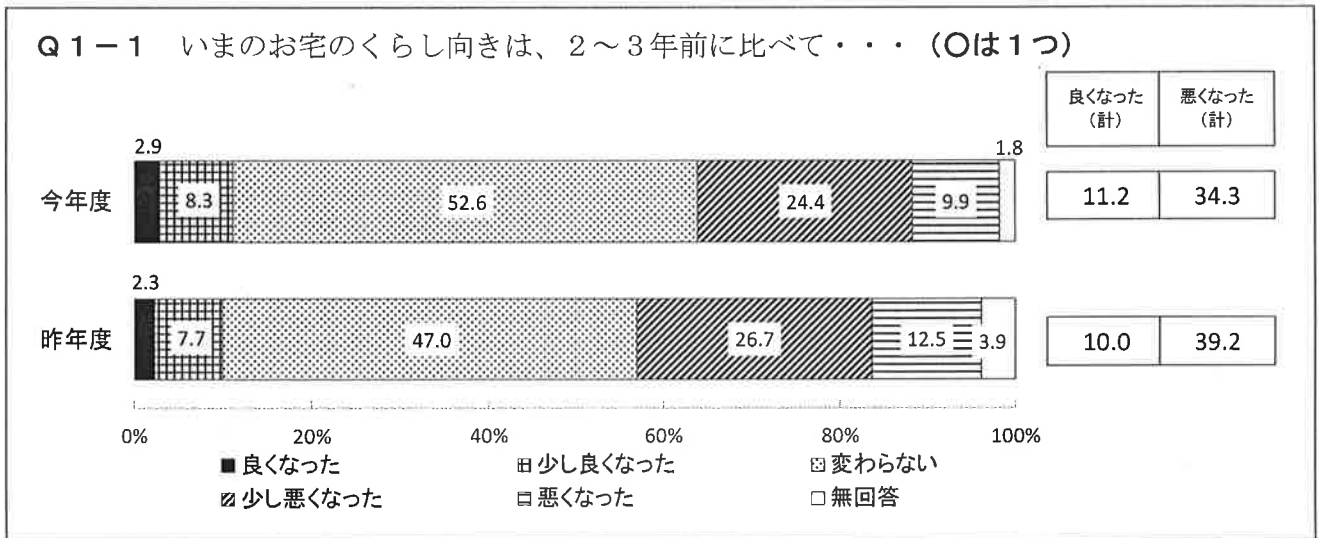


Ⅱ. 調査結果

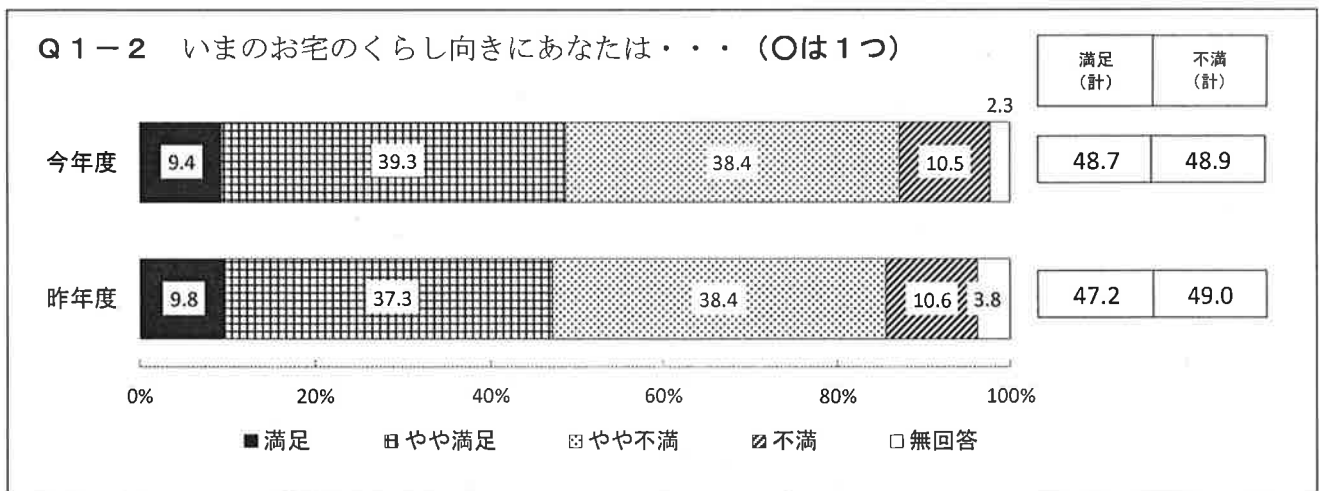
1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化



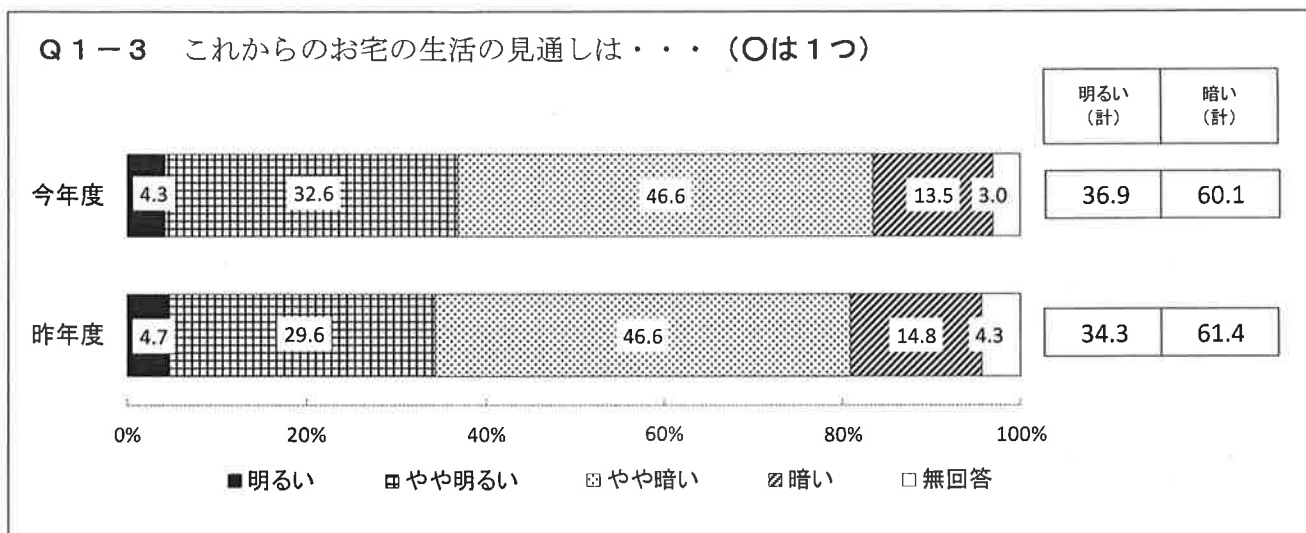
2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった (計)』は 11.2%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった (計)』は 34.3%となっている。昨年度と比較すると、『悪くなった (計)』は 4.9 ポイント低下している。

1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』は 48.7%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満 (計)』は 48.9%となっている。昨年度と比較すると、『満足 (計)』は 1.5 ポイント上昇している。

1-3. 今後の生活の見通し



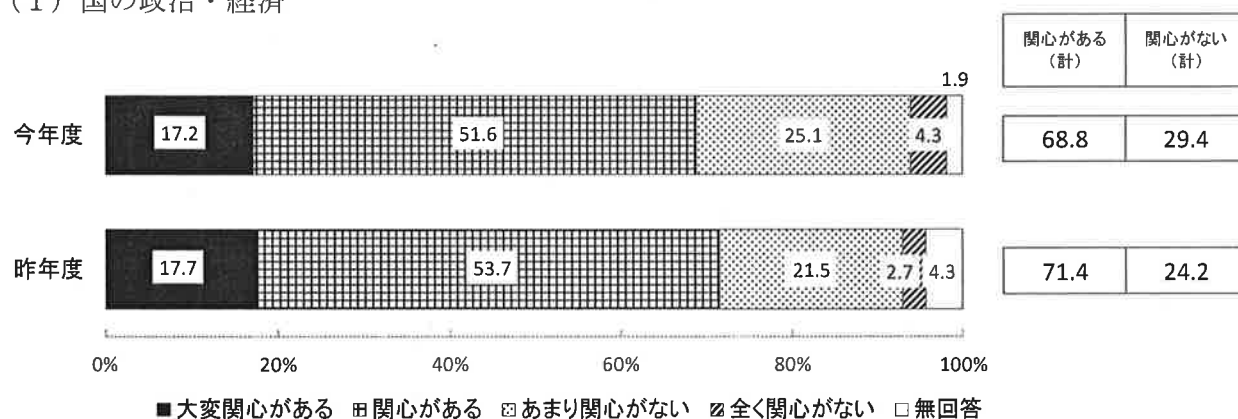
今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』は36.9%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』は60.1%と、暗い展望が上回っている。昨年度と比較すると、『明るい (計)』は2.6ポイント上昇している。

2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 国の政治・経済

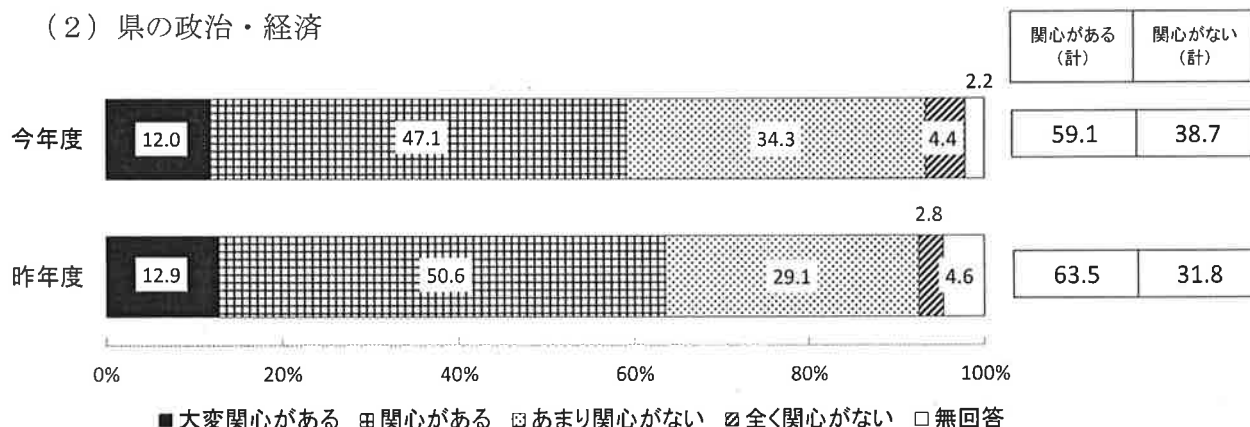


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は 68.8%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は 29.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 2.6 ポイント低下、『関心がない (計)』は 5.2 ポイント上昇している。

2-2. 県の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

(2) 県の政治・経済

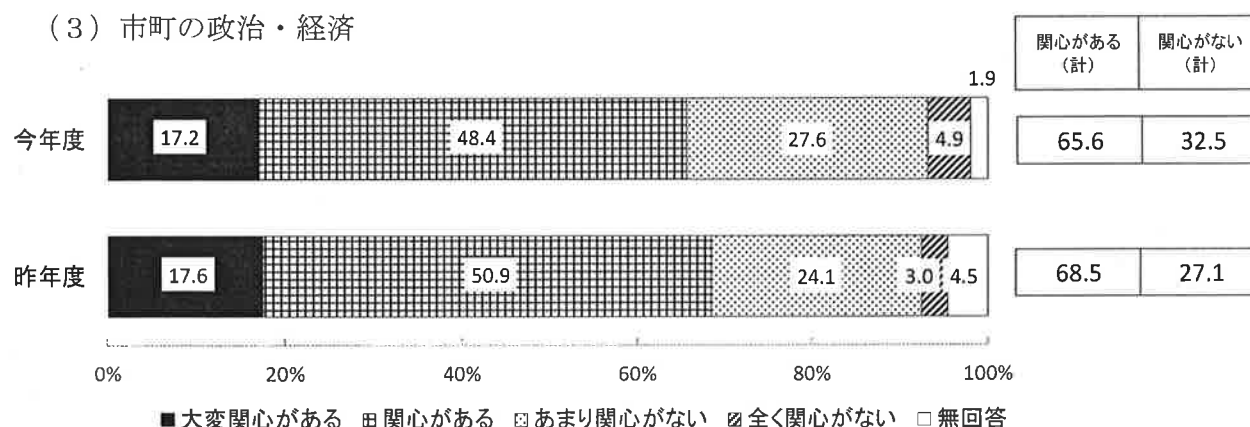


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は 59.1%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は 38.7%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 4.4 ポイント低下、『関心がない (計)』は 6.9 ポイント上昇している。

2-3. 市町の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

(3) 市町の政治・経済

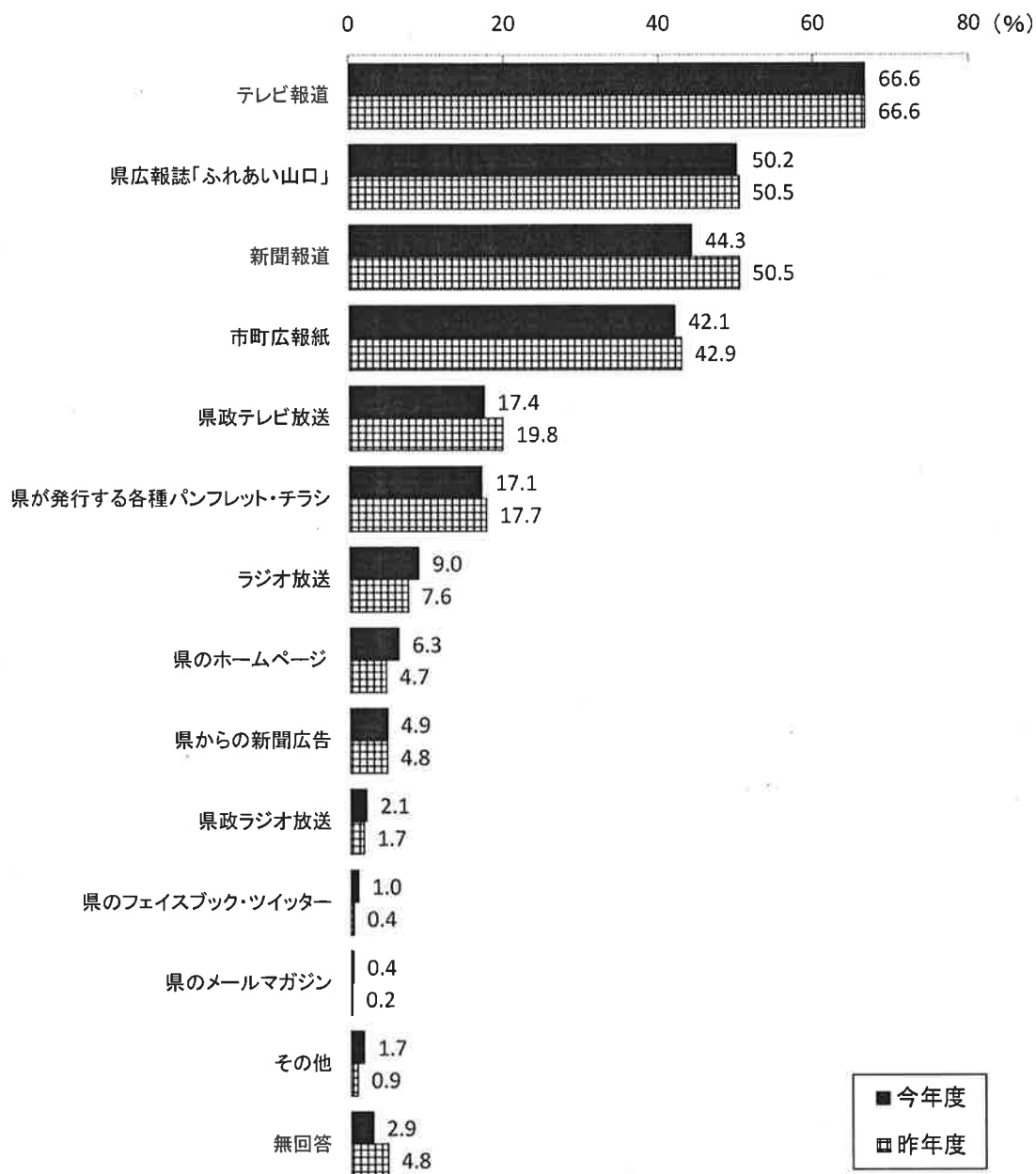


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は 65.6%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は 32.5%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 2.9 ポイント低下、『関心がない (計)』は 5.4 ポイント上昇している。

3. 県が行っている広報

3-1. 県の仕事の認知媒体

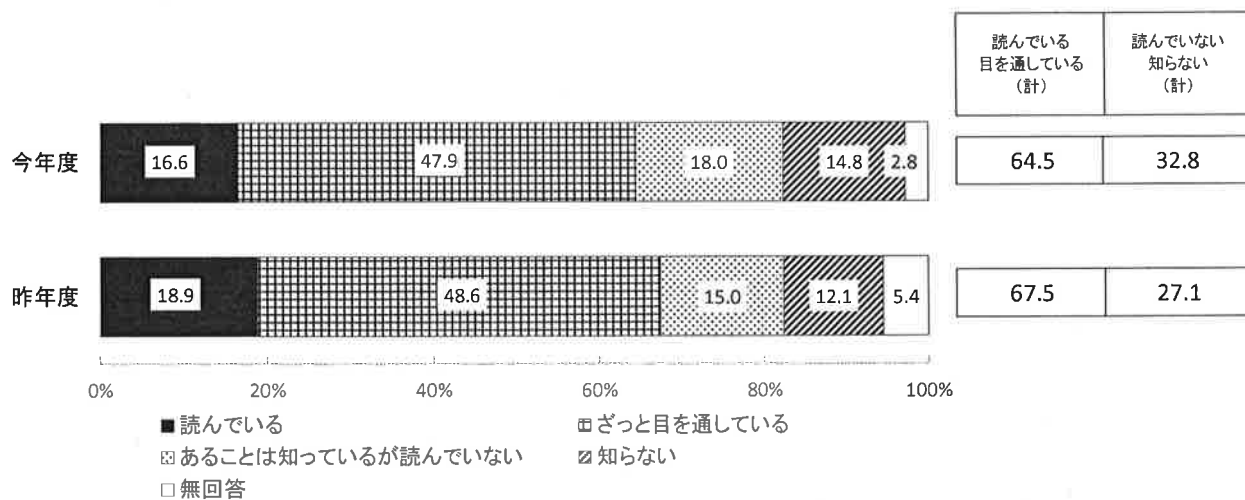
Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。（〇はいくつでも）



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が 66.6%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」(50.2%)、「新聞報道」(44.3%)、「市町広報紙」(42.1%)、「県政テレビ放送」(17.4%)、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」(17.1%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「新聞報道」は 6.2 ポイント、「県政テレビ放送」は 2.4 ポイント低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況

Q3-2 県全世帯に配布している県広報誌「ふれあい山口」についておたずねします。
「ふれあい山口」を読んだことがありますか。(〇は1つ)



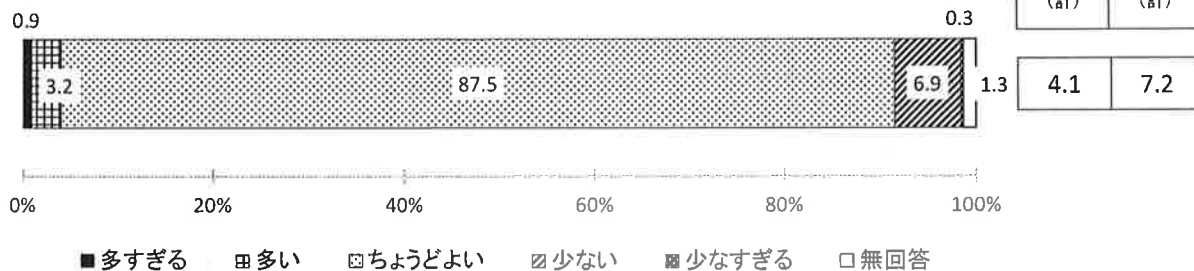
県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している (計)』は64.5%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は32.8%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している (計)』は3.0ポイント低下している。

3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

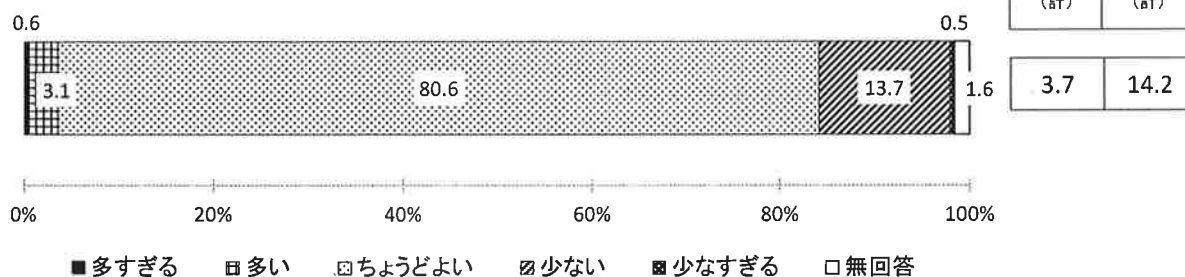
【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通して」と回答した方に】 (n=1,077)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。
(○はそれぞれ1つつつ)

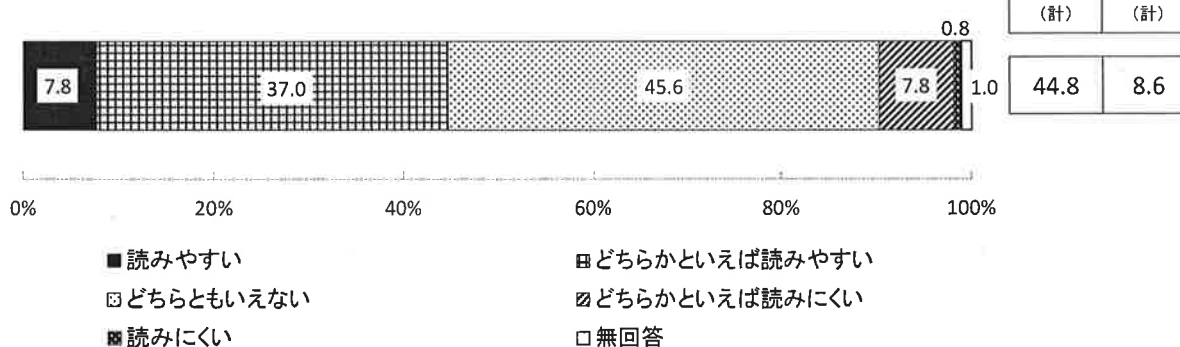
(1) 発行回数【現状】 隔月発行 (年6回発行)



(2) 各号の情報量



(3) 紙面の読みやすさ



Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通して」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が87.5%と最も多く、情報量については「ちょうどよい」が80.6%、「少ない」と「少なすぎる」を合わせた『少ない (計)』は、14.2%となっている。読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい (計)』は44.8%、「読みにくい」と「どちらかといえば読みにくい」を合わせた『読みにくい (計)』は8.6%となっている。

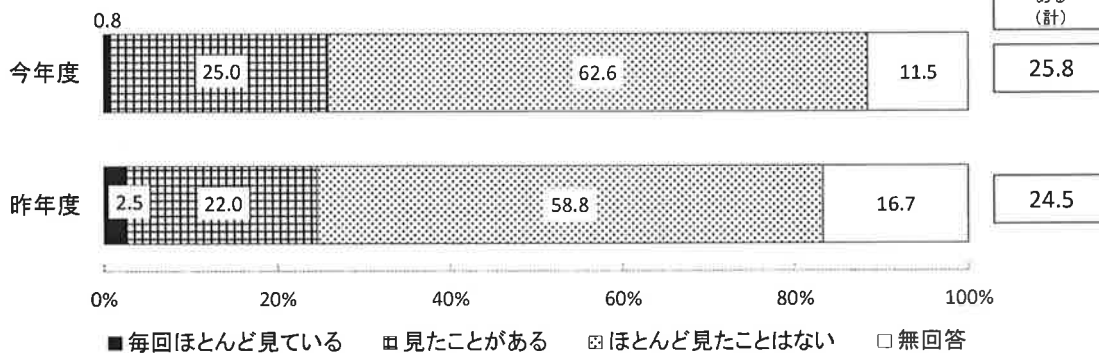
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

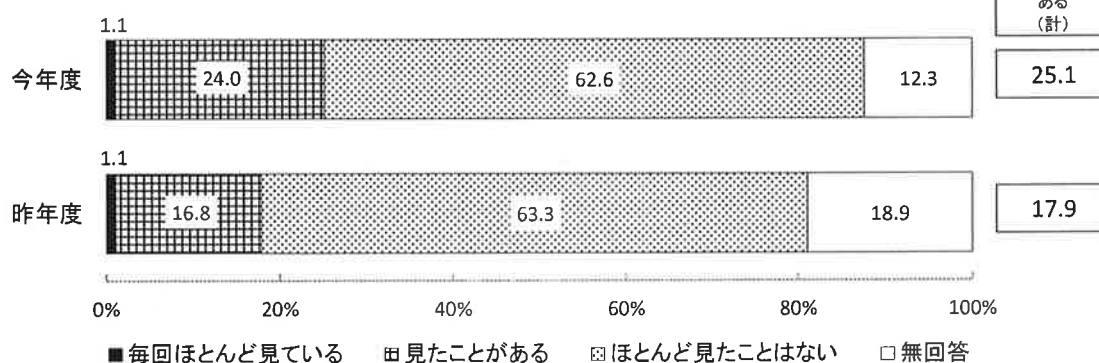
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。

1、2、3から選んでください。（○はそれぞれ1つつ）

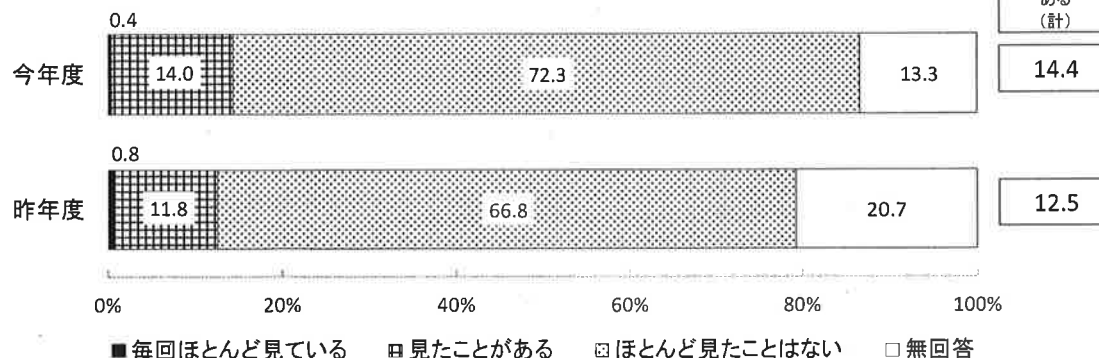
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）

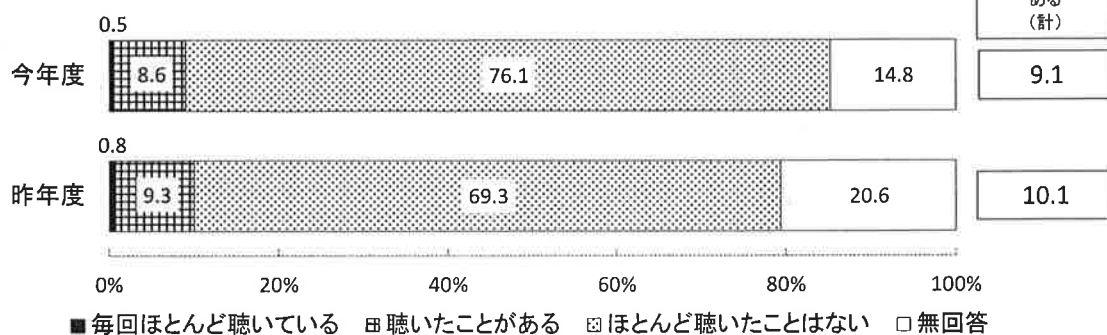


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）

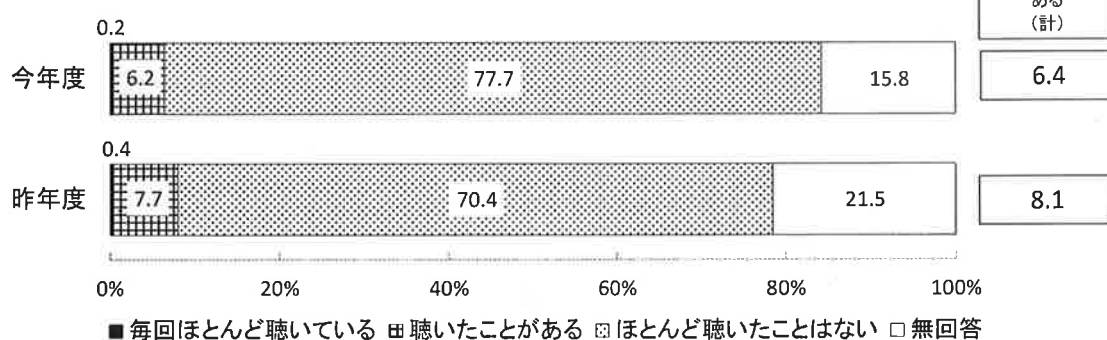


県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある(計)』は、「元気創出！やまぐち」では25.8%、「大好き！やまぐち」では25.1%、「イキイキ！山口」では14.4%と、昨年度に比べ全番組で上昇している。

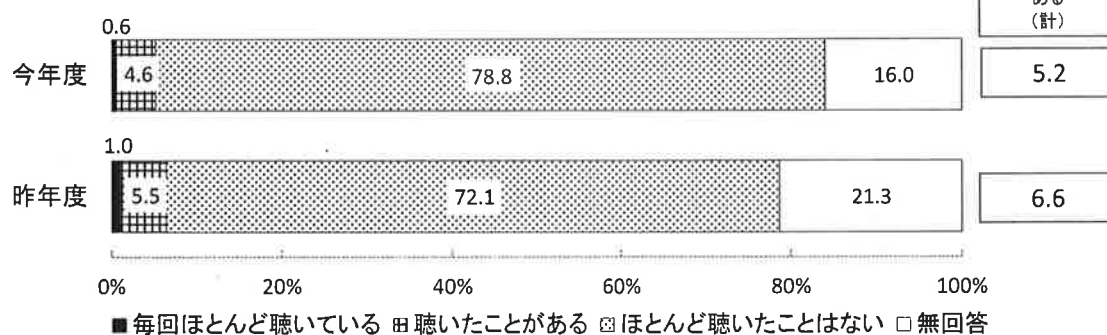
(エ) 「ワンポイント県政」 (KRY山口放送)



(オ) 「FM県民ダイアリー」 (エフエム山口)



(カ) 「情報BOX山口」 (エフエム山口)



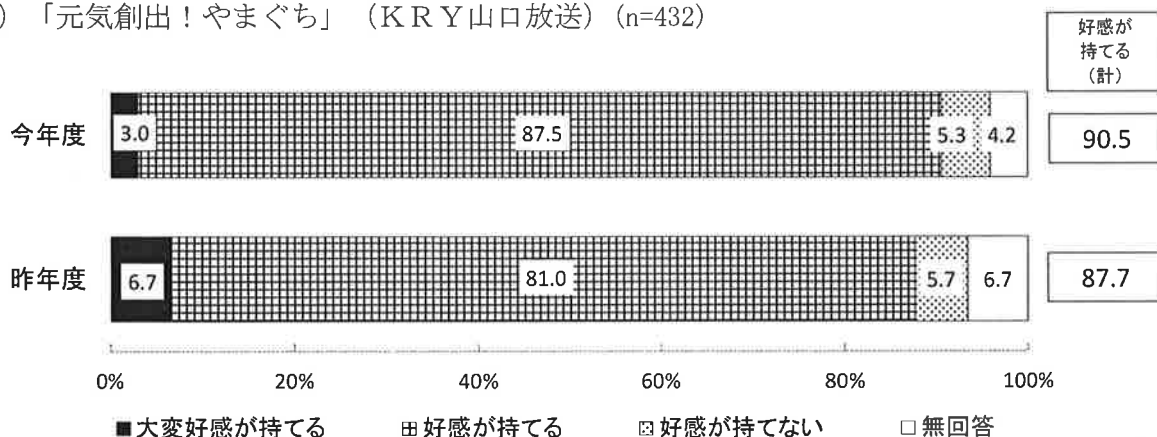
県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』は、「ワンポイント県政」では9.1%、「FM県民ダイアリー」では6.4%、「情報BOX山口」では5.2%と、昨年度に比べ全番組とも低下している。

3-5. 各テレビ番組・各ラジオ番組の印象

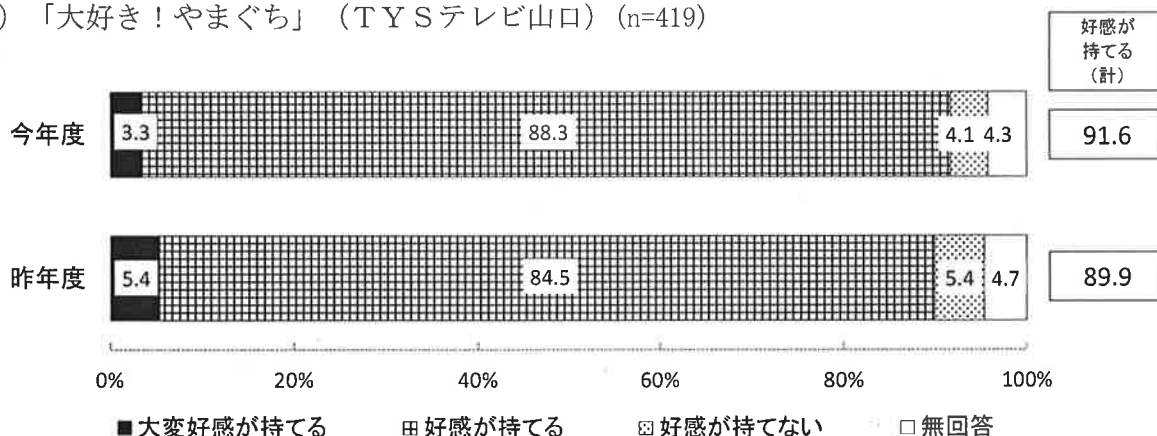
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象を4、5、6から選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

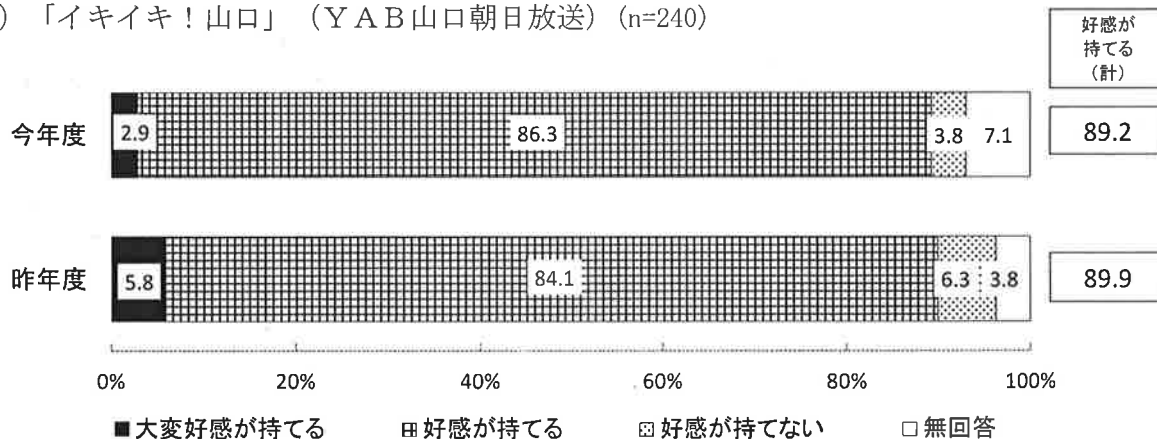
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）（n=432）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）（n=419）

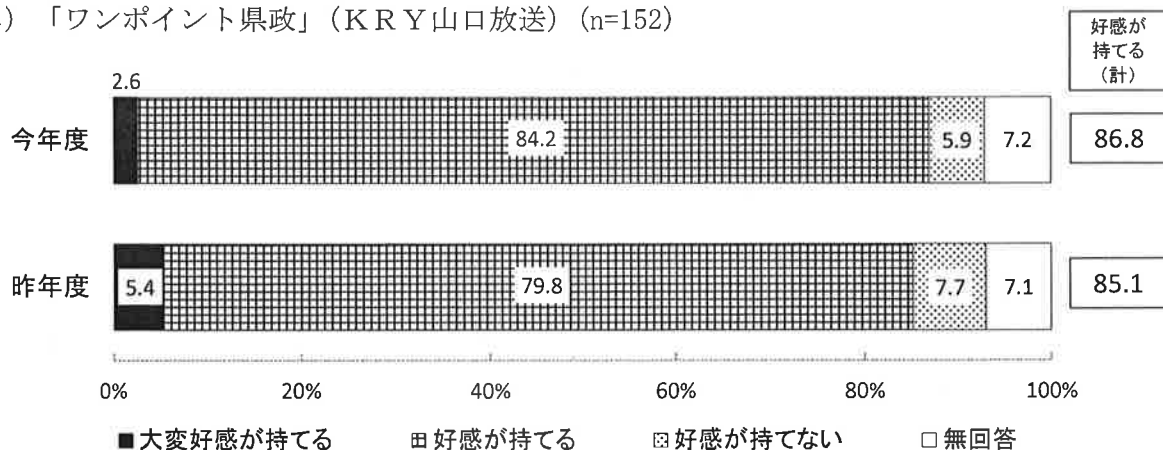


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）（n=240）

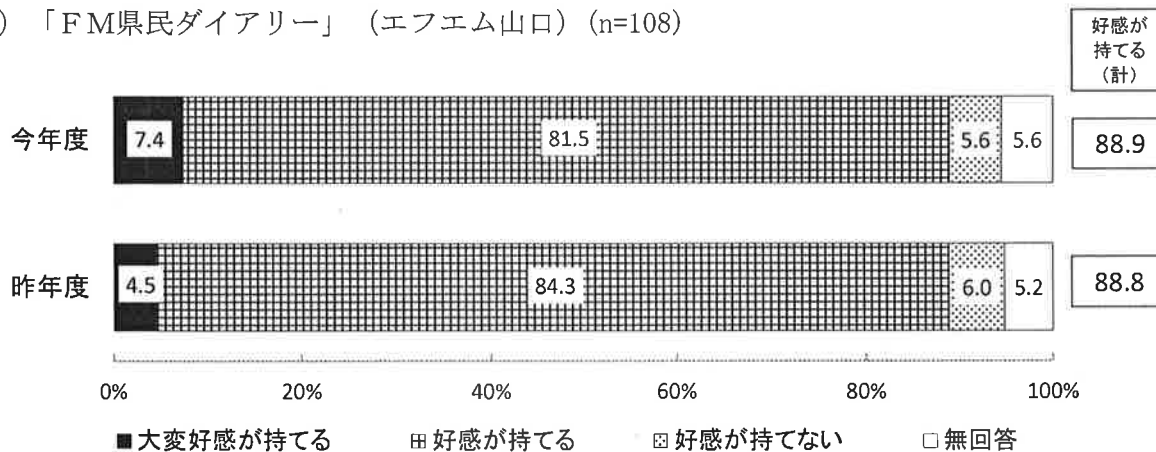


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』は9割前後となっており、昨年度と比較すると、「イキイキ！やまぐち」は0.7ポイント低下したが、その他の番組では上昇している。

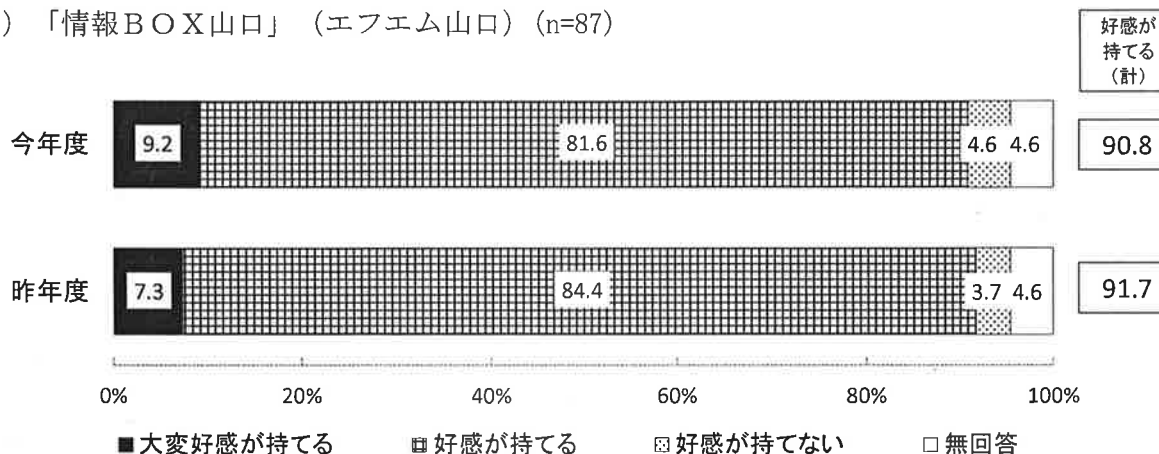
(エ) 「ワンポイント県政」(KRY山口放送) (n=152)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=108)

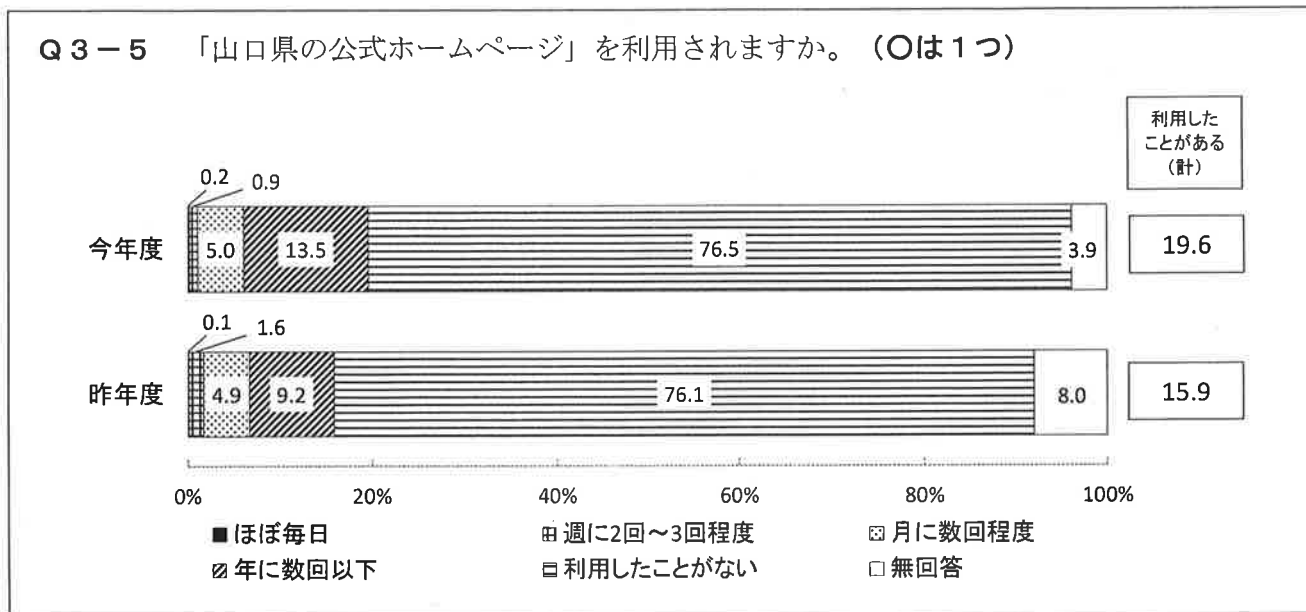


(カ) 「情報BOX山口」(エフエム山口) (n=87)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』は9割前後となっており、昨年度と比較すると、「情報BOX山口」は0.9ポイント低下したが、その他の番組では上昇している。

3-6. 「山口県の公式ホームページ」の利用頻度



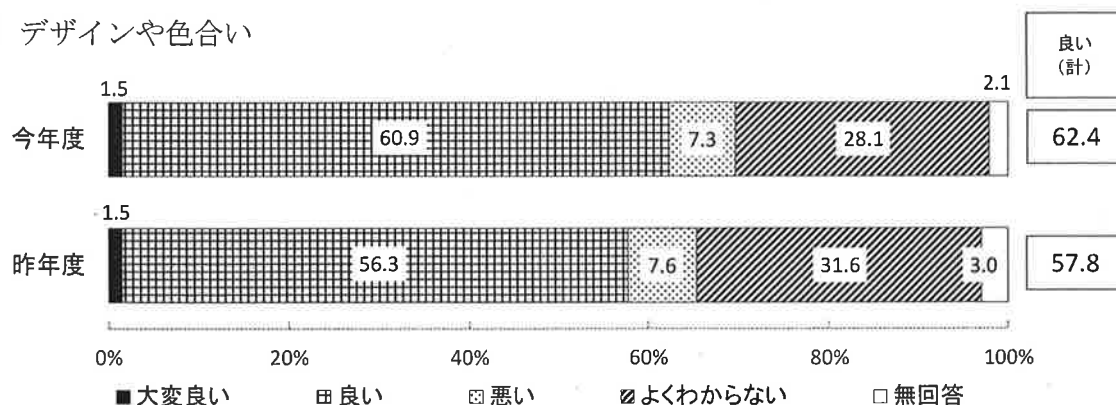
「山口県の公式ホームページ」の利用頻度について、「ほぼ毎日」、「週に2回~3回程度」、「月に数回程度」、「年に数回以下」を合わせた『利用したことがある(計)』は19.6%、「利用したことがない」は76.5%となっている。昨年度と比較すると、『利用したことがある(計)』は3.7ポイント上昇している。

3-7. 「山口県の公式ホームページ」の印象

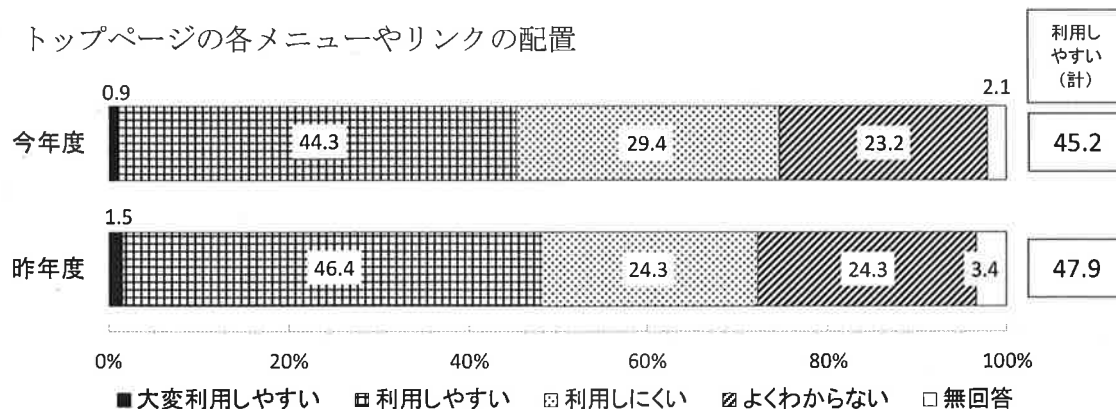
【Q3-5で利用したことがあると回答した方に】(n=327)

Q3-6 「山口県の公式ホームページ」を利用して初めての印象を選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

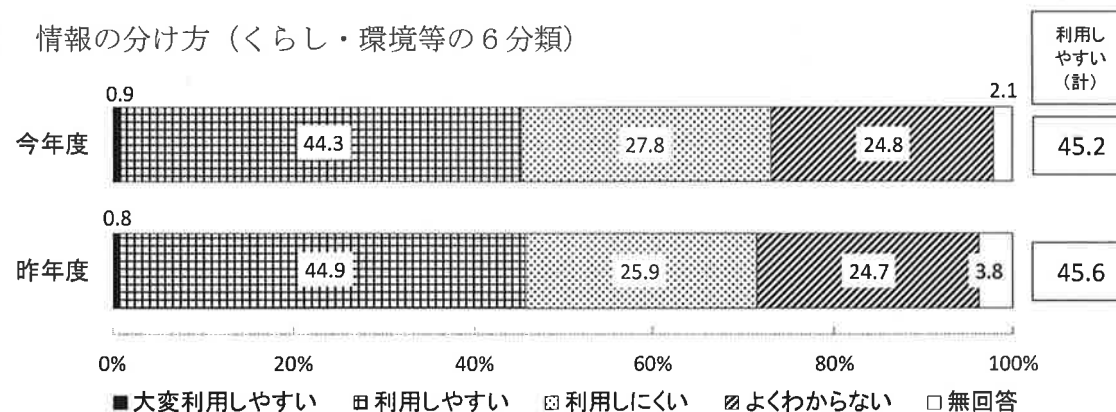
(1) デザインや色合い



(2) トップページ各メニューやリンクの配置



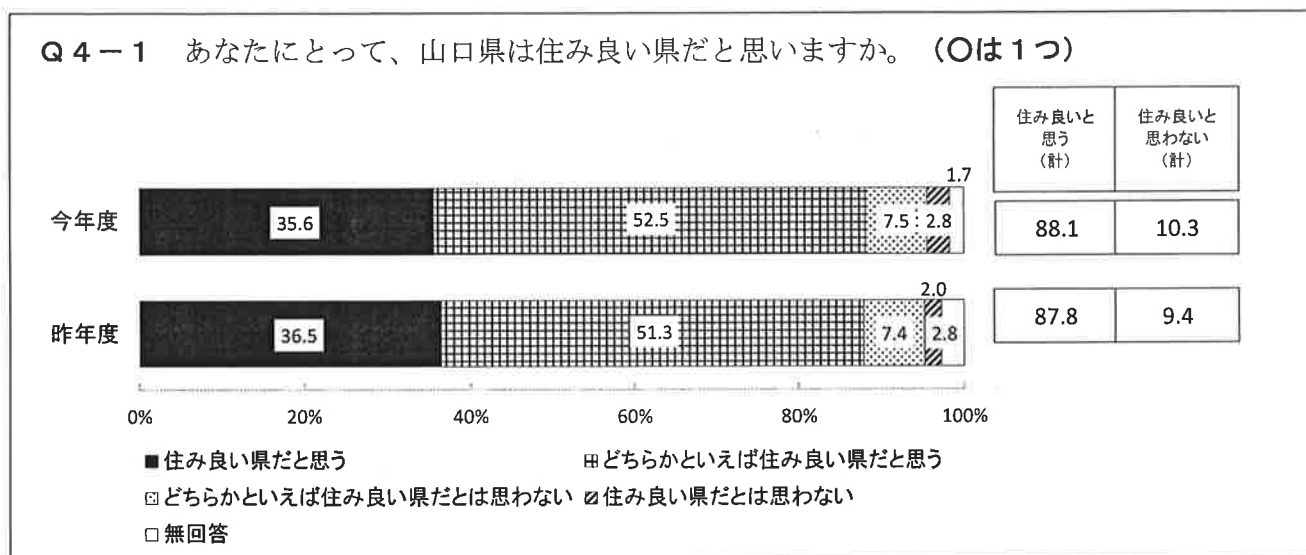
(3) 情報の分け方(暮らし・環境等の6分類)



Q3-5で「山口県の公式ホームページ」を利用したことがあると回答された方に、印象について質問すると、デザインや色合いは「大変良い」と「良い」を合わせた『良い(計)』は62.4%、「悪い」は7.3%となっており、トップページの各メニューやリンクの配置は、「大変利用しやすい」と「利用しやすい」を合わせた『利用しやすい(計)』は45.2%、「利用しにくい」は29.4%となっている。また、情報の分け方(暮らし・環境等の6分類)は、「大変利用しやすい」と「利用しやすい」を合わせた『利用しやすい(計)』は45.2%、「利用しにくい」は27.8%となっている。昨年度と比較すると、「デザインや色合い」で『良い(計)』は4.6ポイント上昇している。

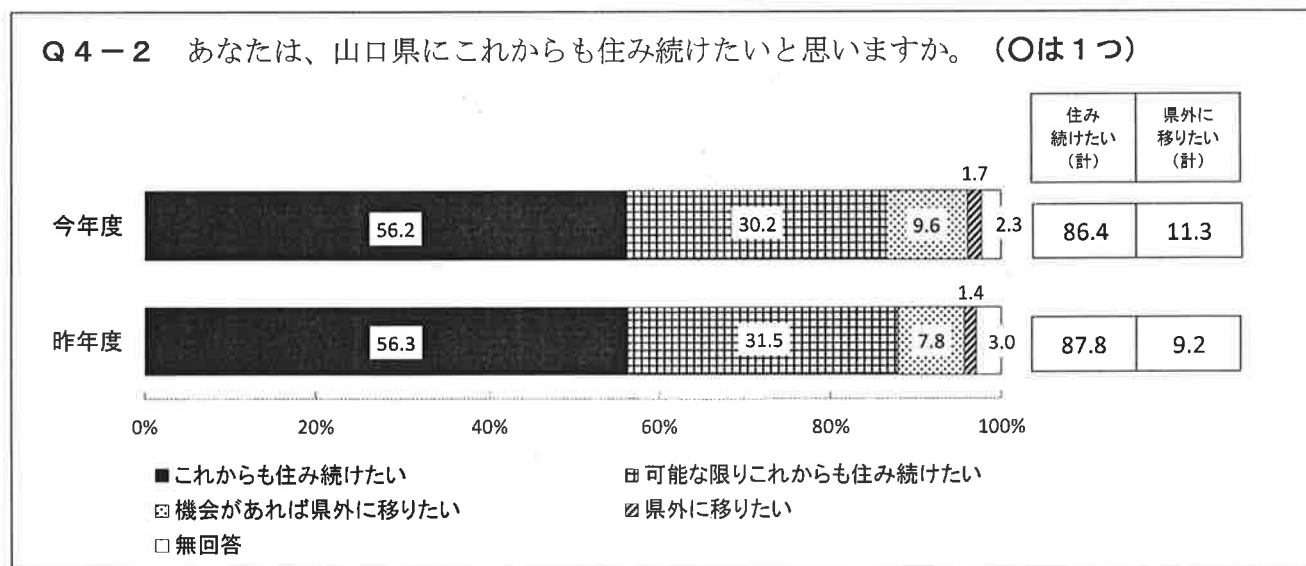
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住み良い県だと思う」と「どちらかといえば住み良い県だと思う」を合わせた『住み良いと思う (計)』は88.1%となっており、昨年度と比較すると、0.3ポイント上昇し、引き続き約9割の高水準にある。

4-2. 今後の山口県への居住意向

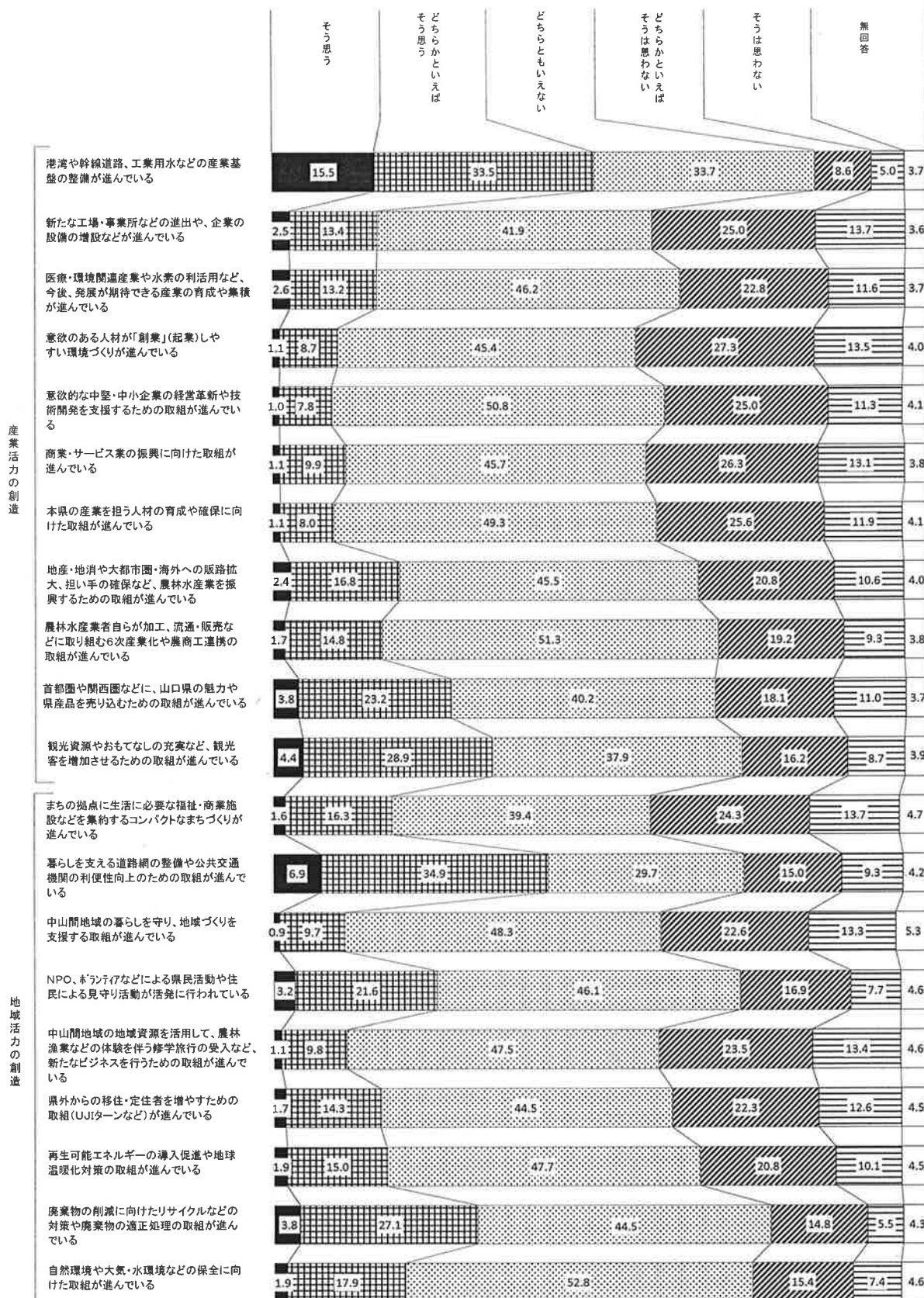


今後の山口県への居住意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』は86.4%となっており、昨年度と比較すると、1.4ポイント低下しているものの、依然9割近い高水準にある。

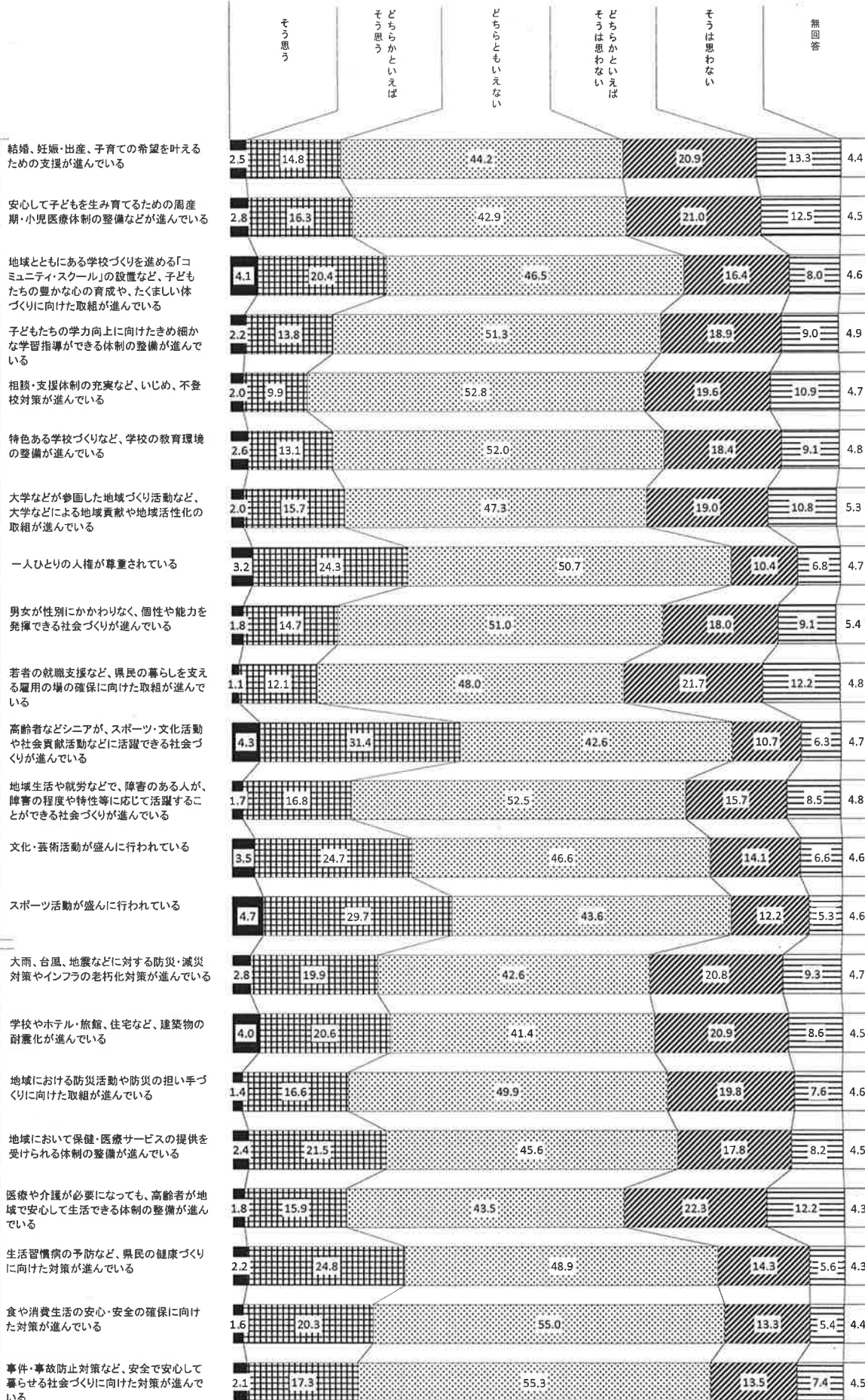
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 チャレンジプランに基づいて取り組んでいる次の各項目におけるあなたの実感についておたずねします。いずれか1つを○で囲んでください。

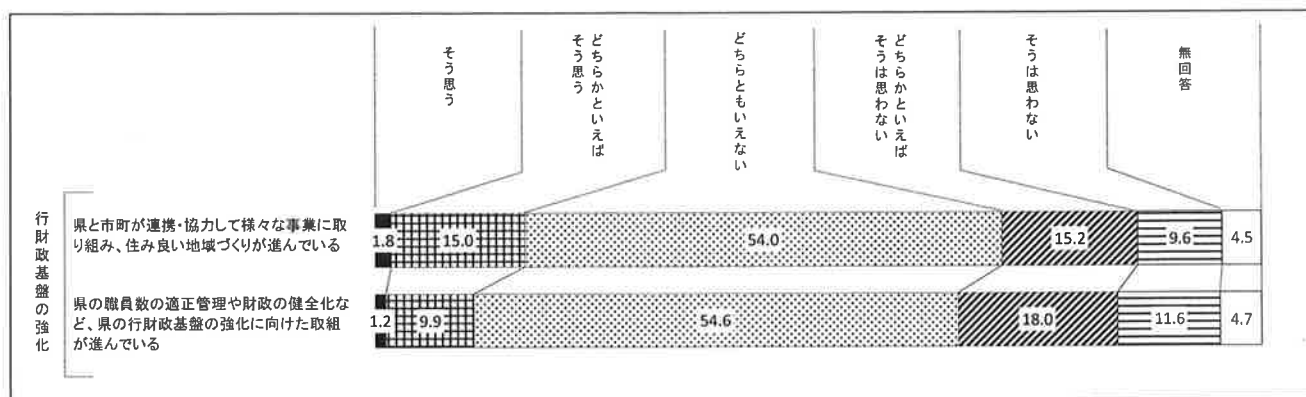
(○はそれぞれ1つずつ)



人材活力の創造



安心・安全の確保



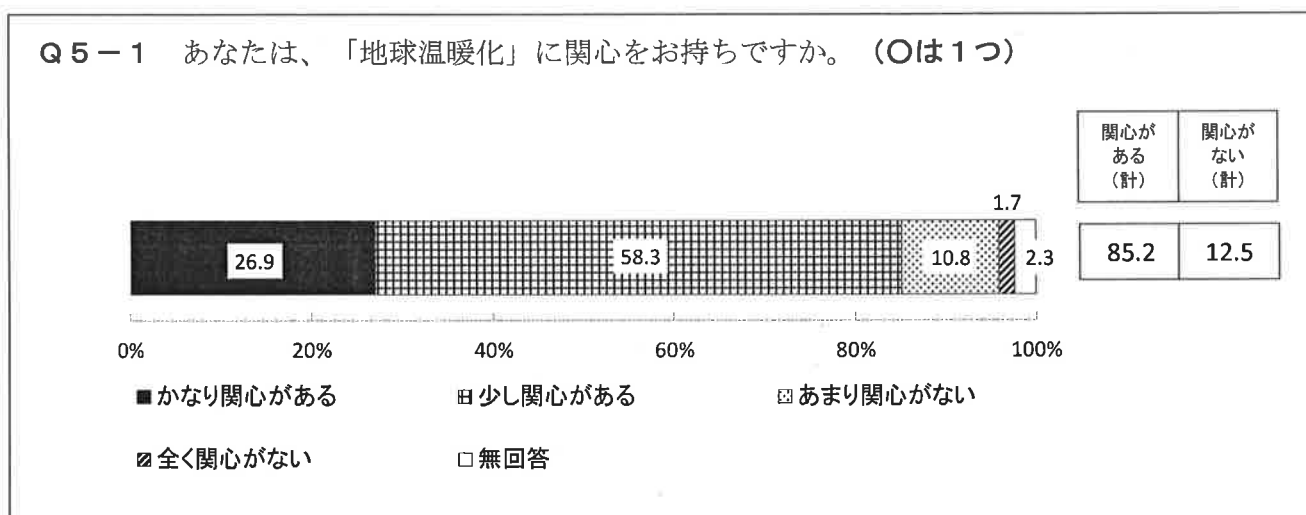
県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、【産業活力の創造】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」(49.0%)、【地域活力の創造】分野の「暮らしを支える道路網の整備や公共交通機関の利便性向上のための取組が進んでいる」(41.8%)、【人材活力の創造】分野の「高齢者などシニアが、スポーツ・文化活動や社会貢献活動などに活躍できる社会づくりが進んでいる」(35.7%)などで高くなっている。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない(計)』の割合は、【産業活力の創造】分野の「意欲のある人材が「創業」(起業)しやすい環境づくりが進んでいる」(40.8%)、「商業・サービス業の振興に向けた取組が進んでいる」(39.4%)、「新たな工場・事業所などの進出や、企業の設備の増設などが進んでいる」(38.7%)などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている10項目』

5. 地球温暖化について

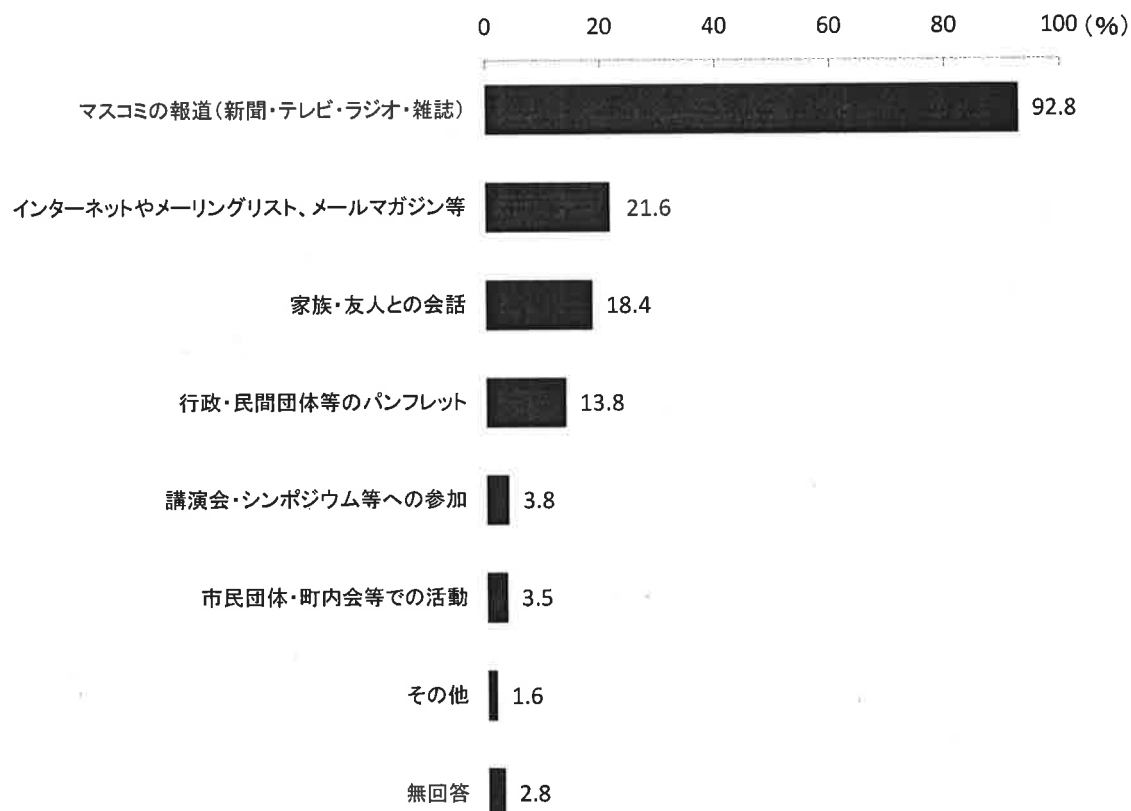
5-1. 地球温暖化への関心



「地球温暖化」への関心度について、「かなり関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が85.2%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は12.5%となっている。

5-2. 環境に関する情報の入手媒体

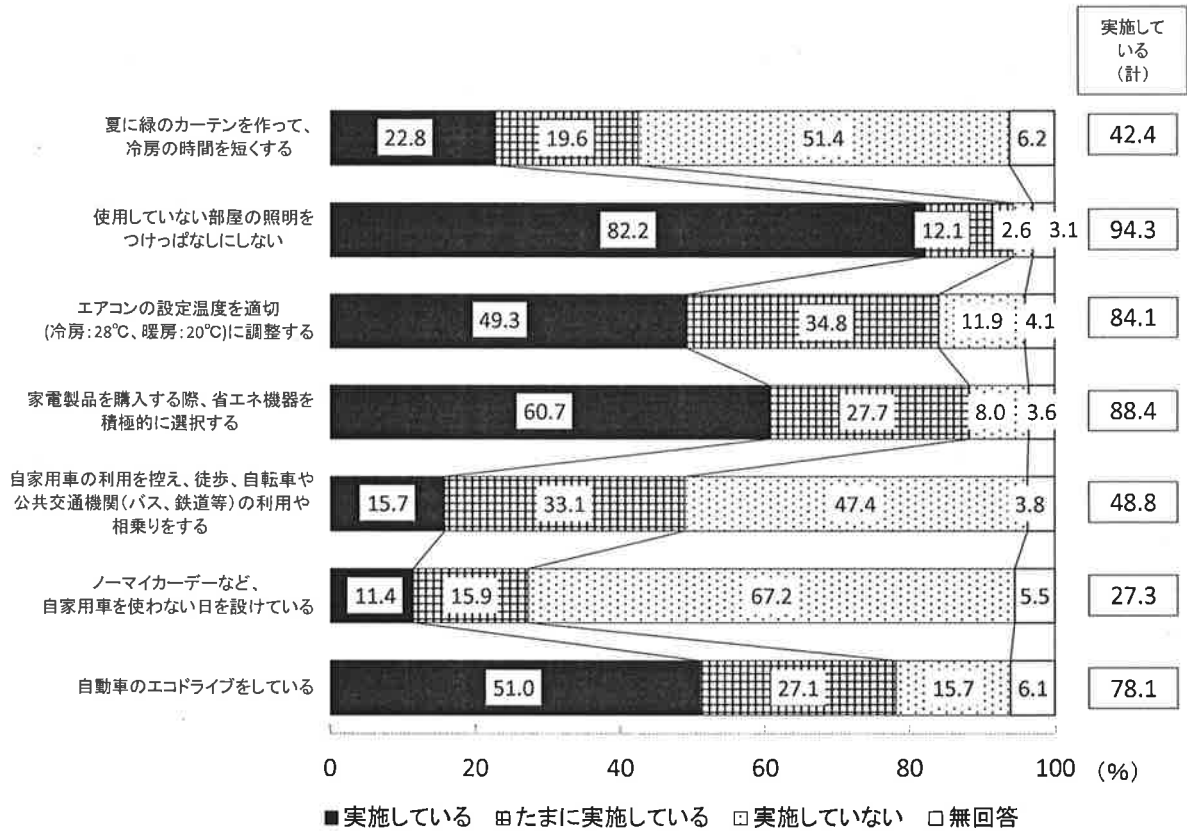
Q5-2 あなたは、地球温暖化などの環境に関する情報を何から得ていますか。
(〇はいくつでも)



環境に関する情報の入手媒体について、「マスコミの報道(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)」が92.8%と最も高く、次いで「インターネットやメールリングリスト、メールマガジン等」(21.6%)、「家族・友人との会話」(18.4%)、「行政・民間団体等のパンフレット」(13.8%)、「講演会・シンポジウム等への参加」(3.8%)、「市民団体・町内会等での活動」(3.5%)の順となっている。

5-3. 地球温暖化防止のための取組状況

Q5-3 あなたの日常生活において、地球温暖化防止のために、どのような取組を行っていますか。いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

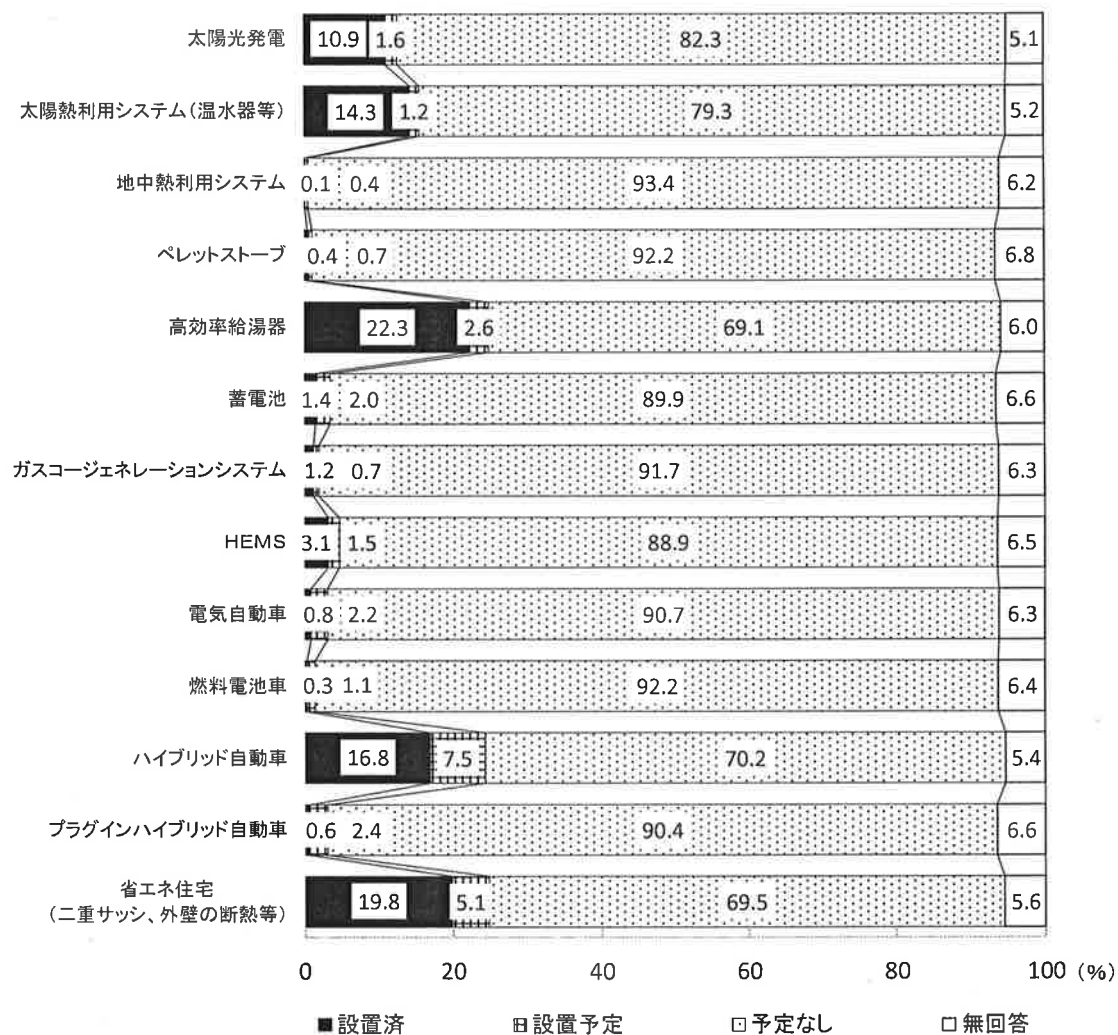


地球温暖化防止のための取組状況について、「実施している」と「たまに実施している」を合わせた『実施している (計)』は、「使用していない部屋の照明をつけっぱなしにしない」が94.3%と最も高くなっている。次いで「家電を購入する際、省エネ機器を積極的に選択する」(88.4%)、「エアコンの設定温度を適切 (冷房:28℃、暖房:20℃) に調整する」(84.1%) などの順となっている。

5-4. 再生可能エネルギー設備や省エネルギー機器等の導入状況

Q5-4 あなたの家庭において、以下の再生可能エネルギー設備や省エネルギー機器等を導入していますか。いずれか1つを○で囲んでください。

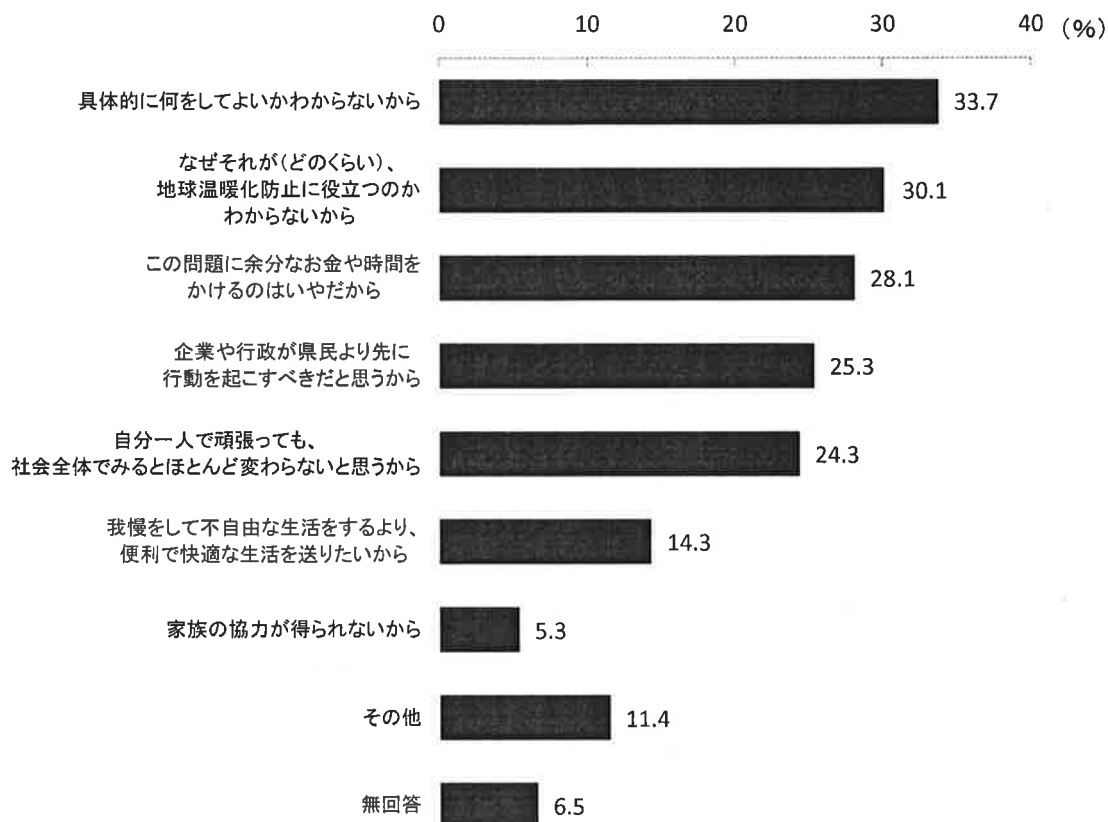
(○はそれぞれ1つずつ)



再生可能エネルギー設備や省エネルギー機器等の導入状況について、すべての項目において「予定なし」が高くなっている。「設置済」は「高効率給湯器」が22.3%と最も高く、次いで「省エネ住宅（二重サッシ、外壁の断熱等）」（19.8%）、「ハイブリッド自動車」（16.8%）などの順となっている。

5-5. 地球温暖化防止行動に取り組みにくい理由

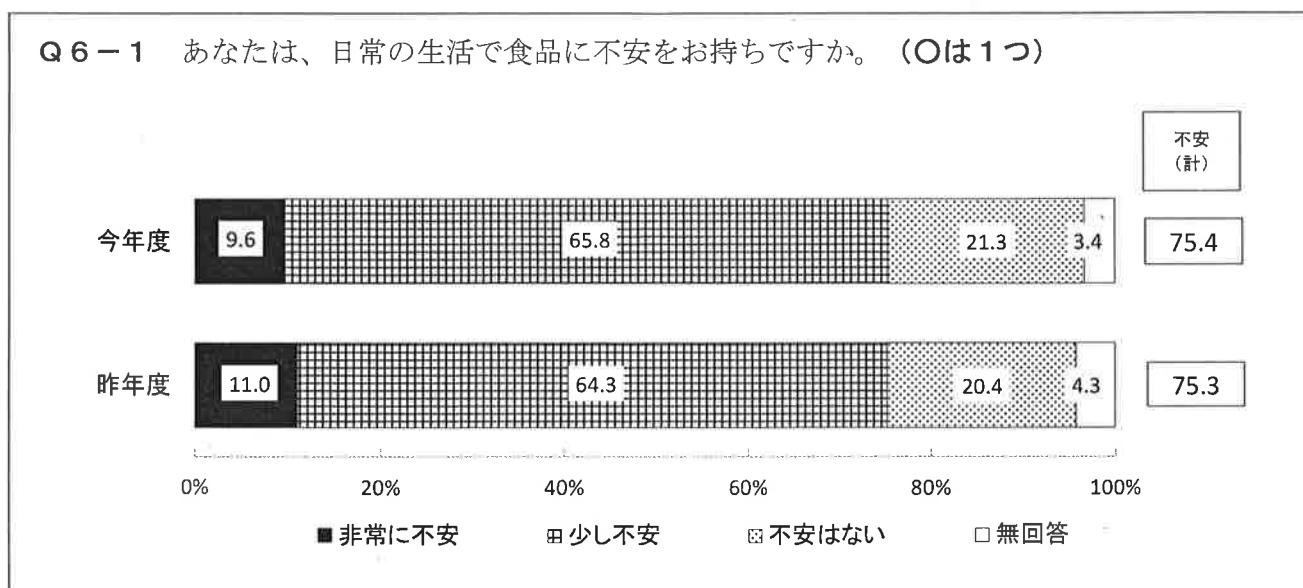
Q5-5 地球温暖化防止行動に取り組みにくい理由は何ですか。現在活発に行動されている方も、取組スタート当初の頃を思い出して記入してください。(〇は3つまで)



地球温暖化防止活動に取り組みにくい理由について、「具体的に何をしてよいかわからないから」が33.7%と最も高く、次いで「なぜそれが(どのくらい)地球温暖化に役立つかわからないから」(30.1%)、「この問題に余分なお金や時間をかけるのはいやだから」(28.1%)、「企業や行政が県民より先に行動を起こすべきだと思うから」(25.3%)、「自分一人で頑張っても、社会全体でみるとほとんど変わらないと思うから」(24.3%)などの順となっている。

6. 食の安心・安全について

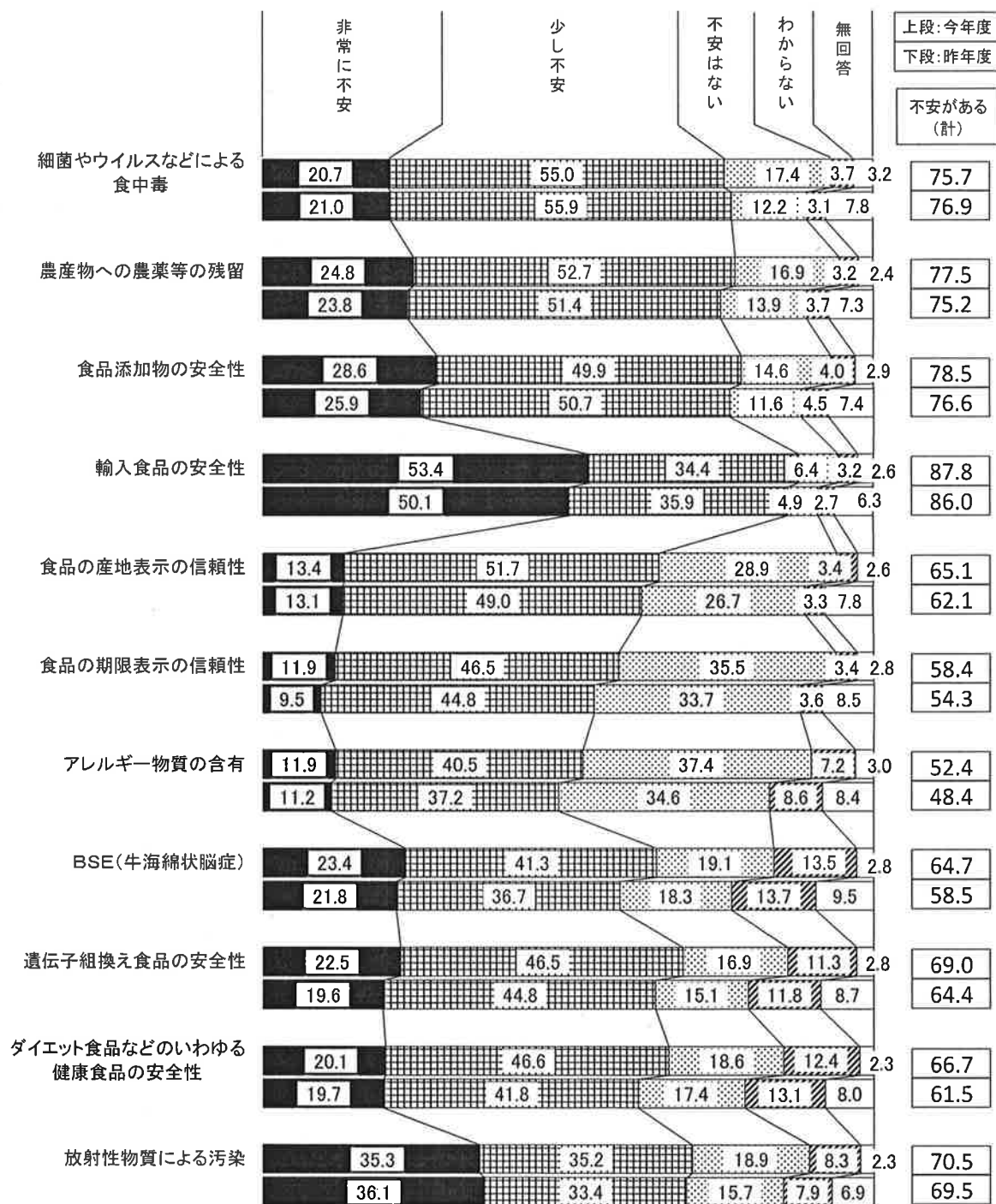
6-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は75.4%と7割を超えている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

6-2. 食品に対する不安の要因

Q6-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

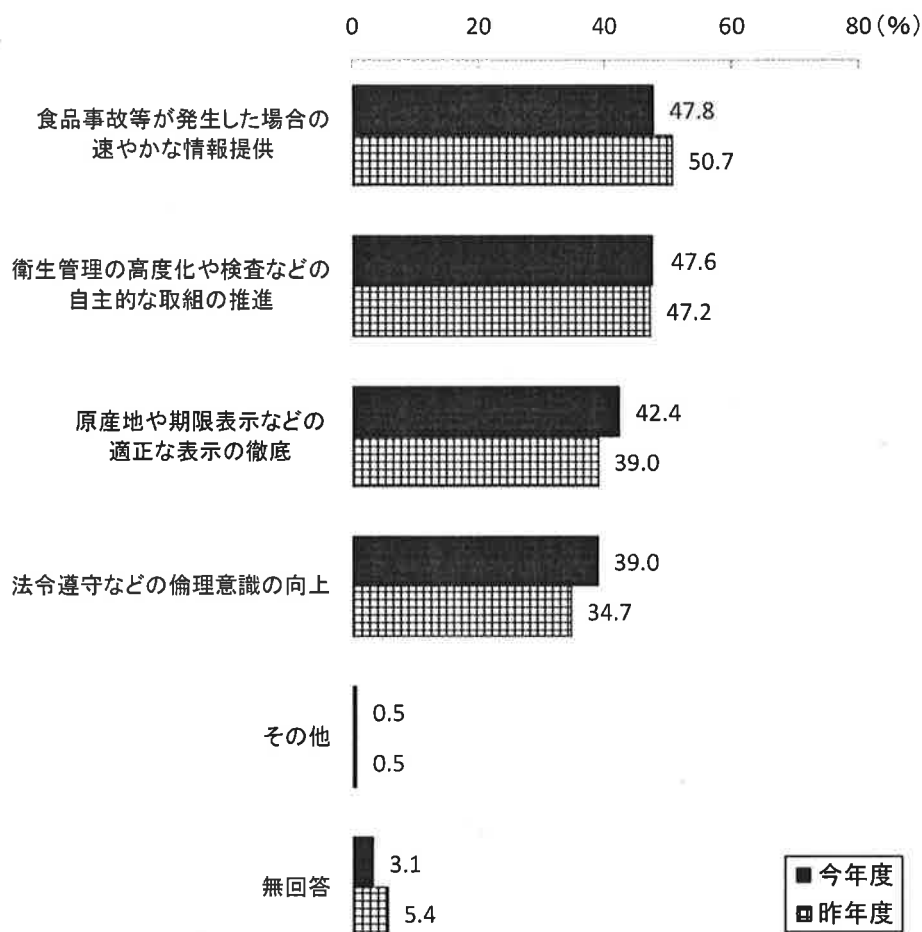


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で87.8%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「細菌やウイルスなどによる食中毒」(75.7%)以外、すべての項目で『不安(計)』が上昇している。

6-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

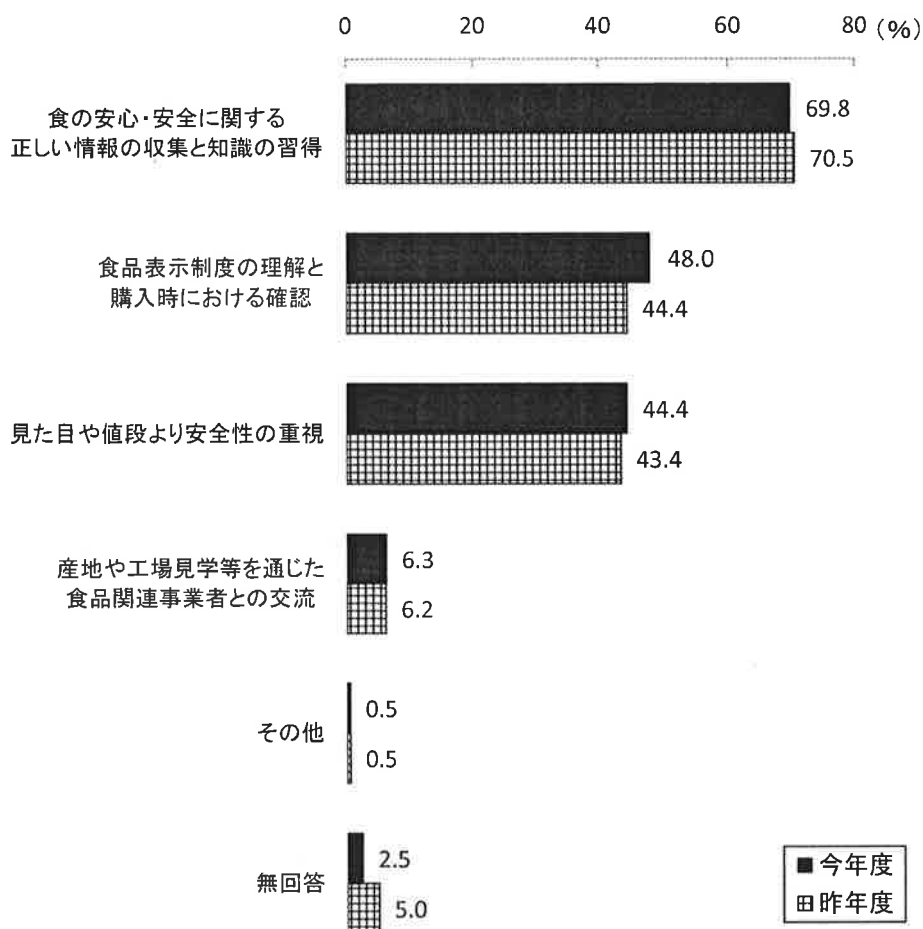
Q6-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組 (○は2つまで)



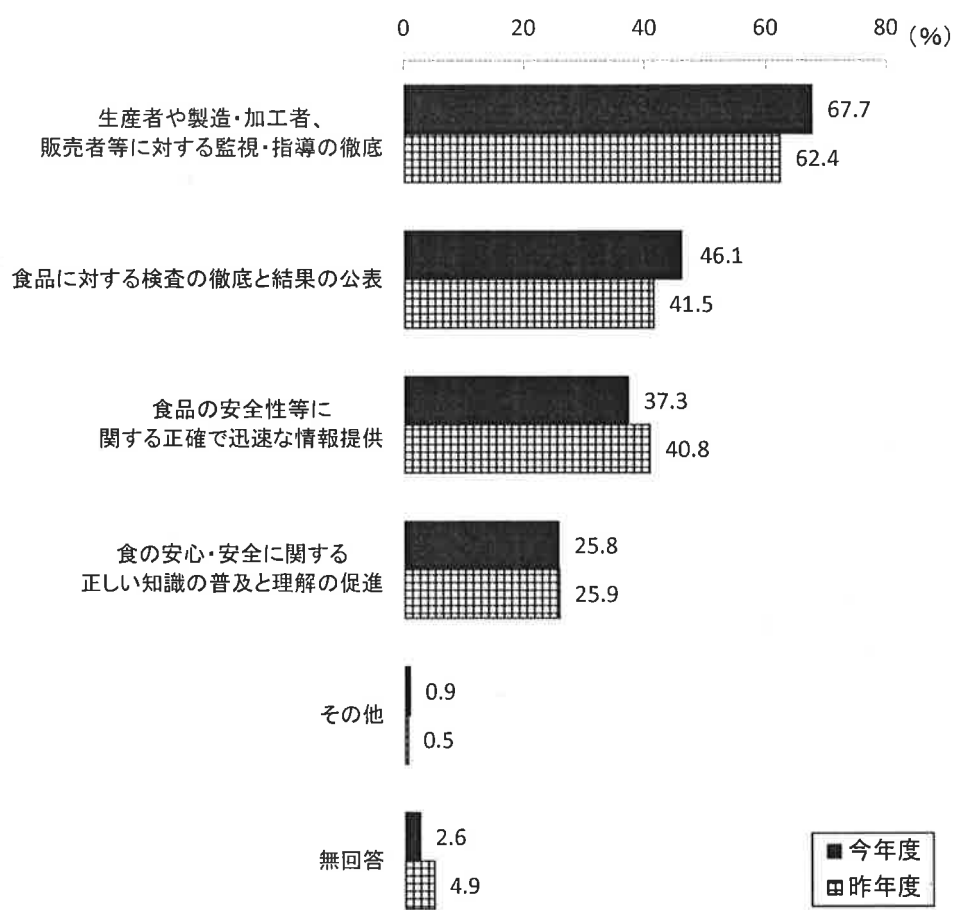
安全で安心な食生活を送るために「食品関連事業者」に望む取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が47.8%と最も高く、次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」(47.6%)、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」(42.4%)、「法令遵守などの倫理意識の向上」(39.0%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が2.9ポイント低下し、「法令遵守などの倫理意識の向上」が4.3ポイント上昇している。

(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が69.8%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」(48.0%)、「見た目や値段より安全性の重視」(44.4%)、「産地や工場見学等を通じた食品関連事業者との交流」(6.3%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が3.6ポイント上昇している。

(3) 県に望む取組 (〇は2つまで)



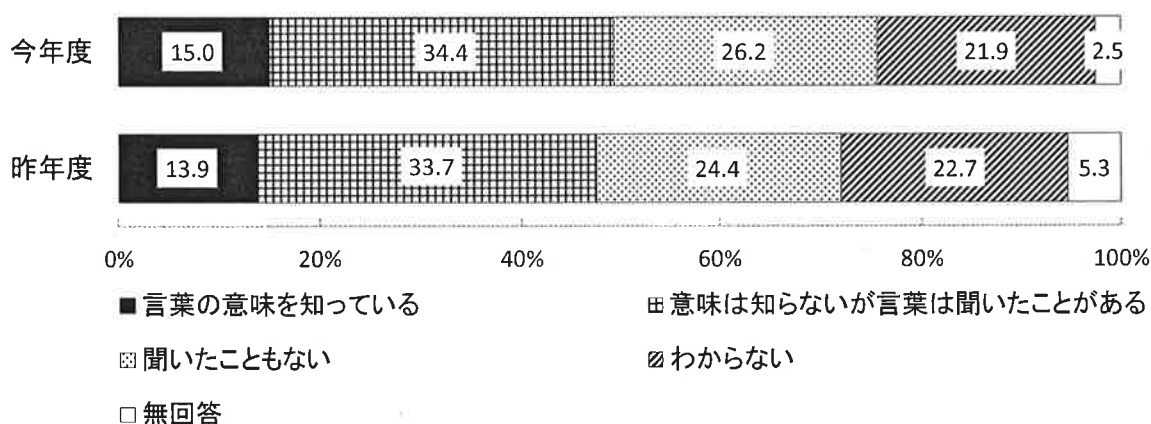
安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が67.7%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」(46.1%)、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」(37.3%)、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」(25.8%)の順となっている。昨年度と比較すると、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が5.3ポイント上昇している。

7. 生物多様性について

「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。食料、木材、薬など、私たちが、日頃あたり前に利用しているものの多くは、生物多様性がもたらす恵みの上に成り立っています。

7-1. 「生物多様性」の認知状況

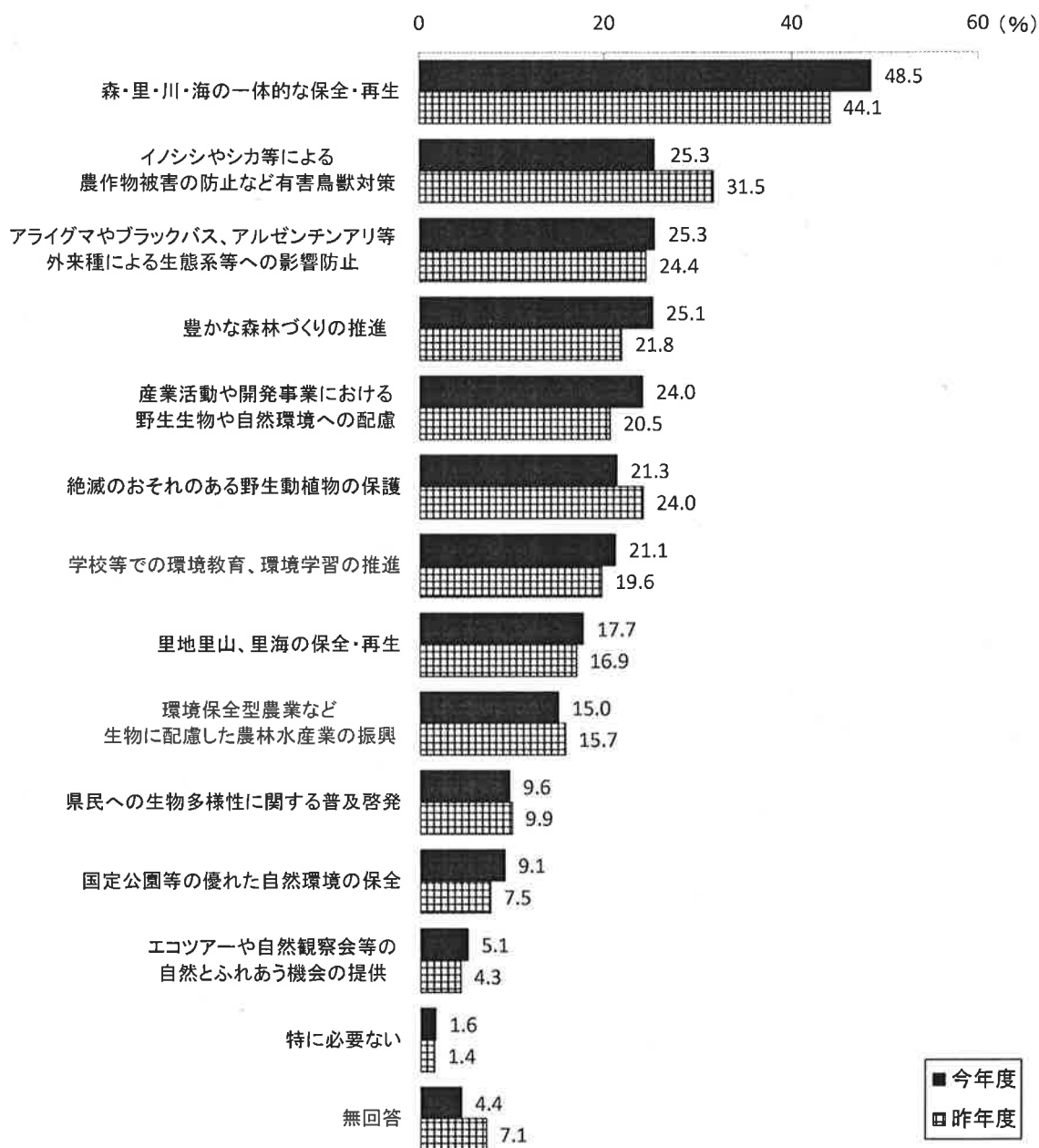
Q7-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が34.4%と最も高く、次いで「聞いたこともない」(26.2%)、「わからない」(21.9%)、「言葉の意味を知っている」(15.0%)の順となっている。昨年度と比較すると、「言葉の意味を知っている」が1.1ポイント上昇している。

7-2. 生物多様性を守るために必要な取組

Q7-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

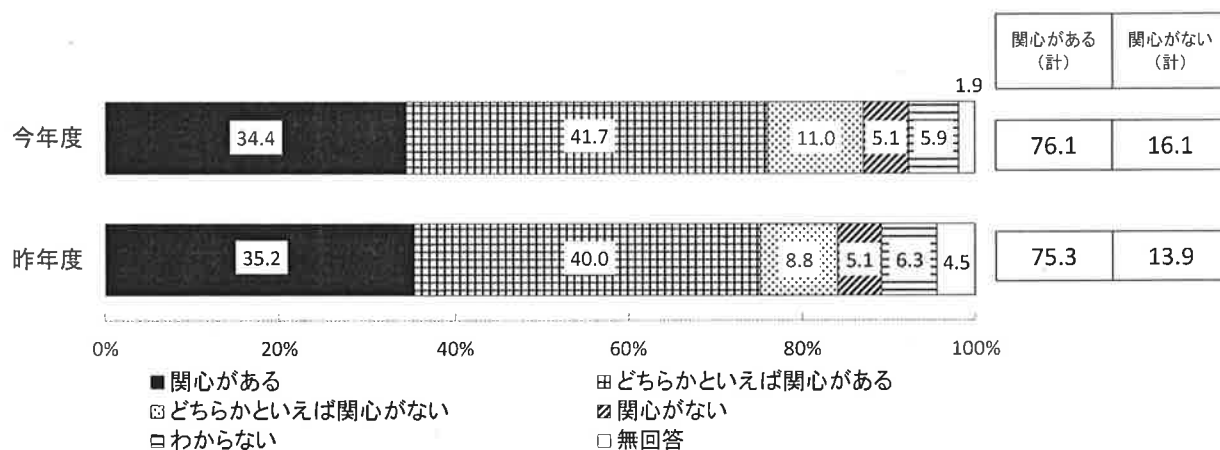


生物多様性を守るための必要な取組について、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が 48.5%と最も高く、次いで「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」(25.3%)・「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」(25.3%)、「豊かな森林づくりの推進」(25.1%)、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」(24.0%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」は 4.4 ポイント上昇し、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」は 6.2 ポイント低下している。

8. 食育について

8-1. 「食育」に対する関心度

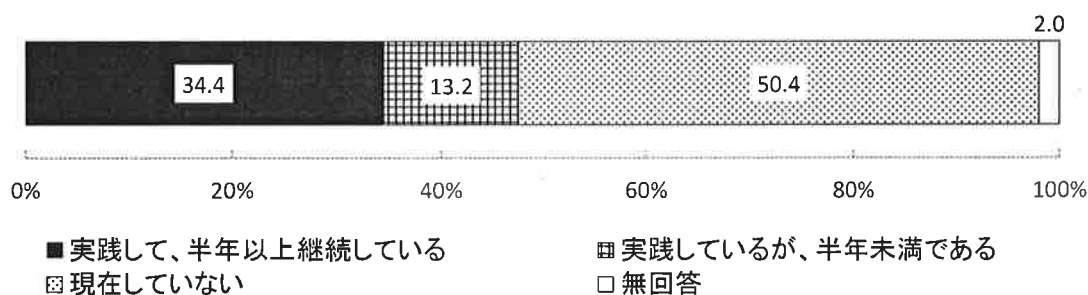
Q8-1 「食育」とは、「食」をめぐる状況の変化に伴うさまざまな問題に対処し、その解決を目指した取組をいいます。あなたは、「食育」について関心がありますか。
(〇は1つ)



食育に対する関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は76.1%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は16.1%となっている。昨年度と比較すると、『関心がない (計)』は2.2ポイント上昇している。

8-2. メタボリックシンドロームの予防や改善のための食事・運動の実践状況

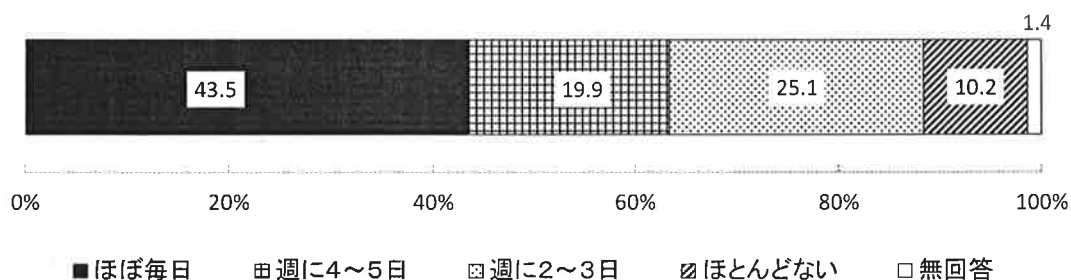
Q8-2 あなたは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のために、適切な食事または定期的な運動を継続的に実践していますか。(〇は1つ)



メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のための食事・運動の実践状況について、「現在していない」が50.4%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」(34.4%)、「実践しているが、半年未満である」(13.2%)の順となっている。

8-3. 主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度

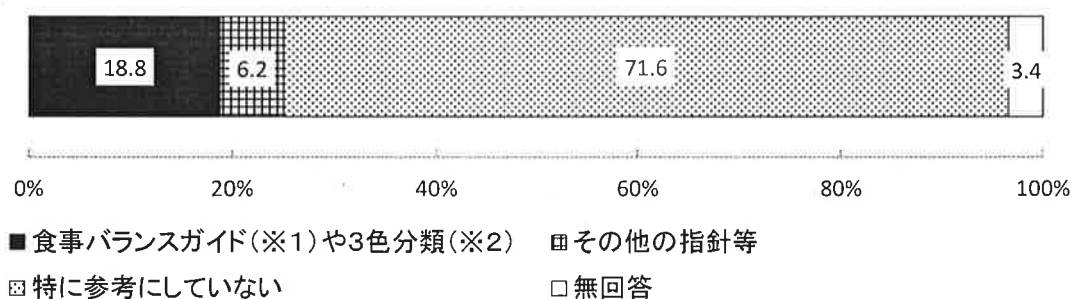
Q8-3 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉、魚、卵、大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つ揃えて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。
 (〇は1つ)



主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度について、「ほぼ毎日」が43.5%と最も高く、次いで「週に2~3日」(25.1%)、「週に4日~5日」(19.9%)、「ほとんどない」(10.2%)の順となっている。

8-4. 日頃参考にしている指針等

Q8-4 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。(〇は1つ)



※1 「食事バランスガイド」：「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの

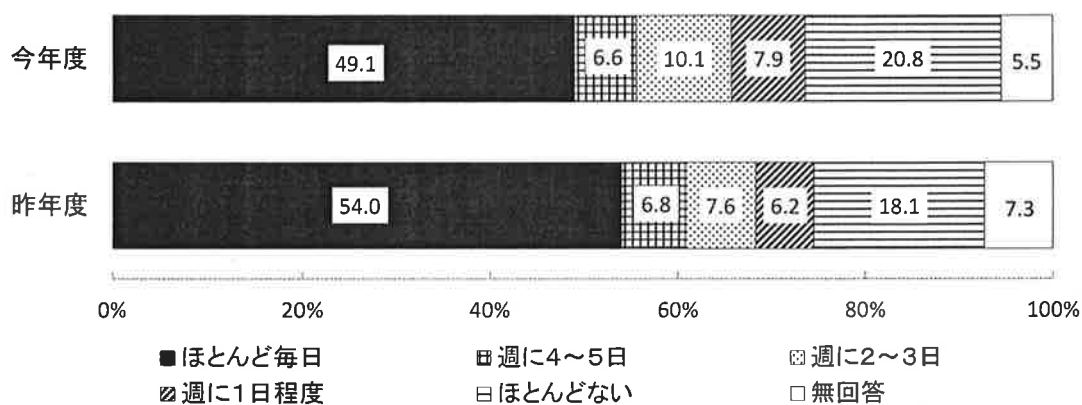
※2 「3色分類」：食品の体内での主な働きを3つに分けて、主な食品を分類したもの

日頃参考にしている指針等について、「特に参加していない」が71.6%と最も高く、次いで「食事バランスガイドや3色分類」(18.8%)、「その他の指針等」(6.2%)の順となっている。

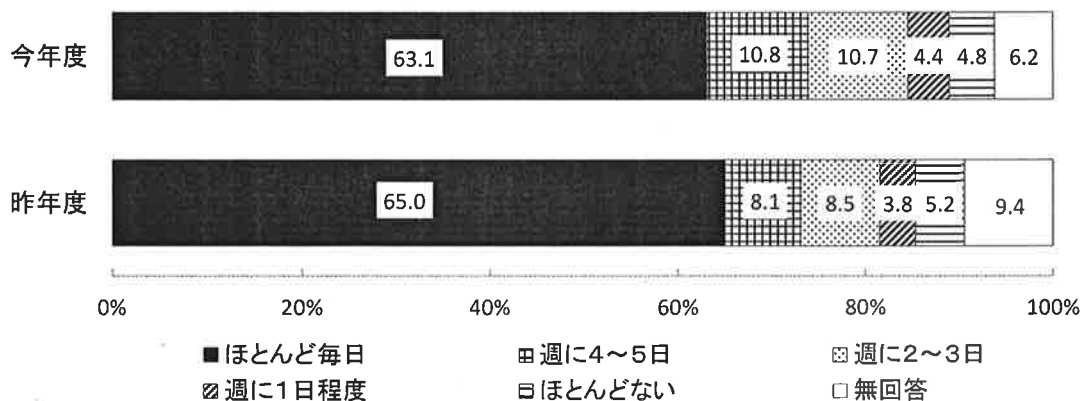
8-5. 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度

Q8-5 家族と同居している方のみお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ) (n=1,506)

(ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか



(イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか

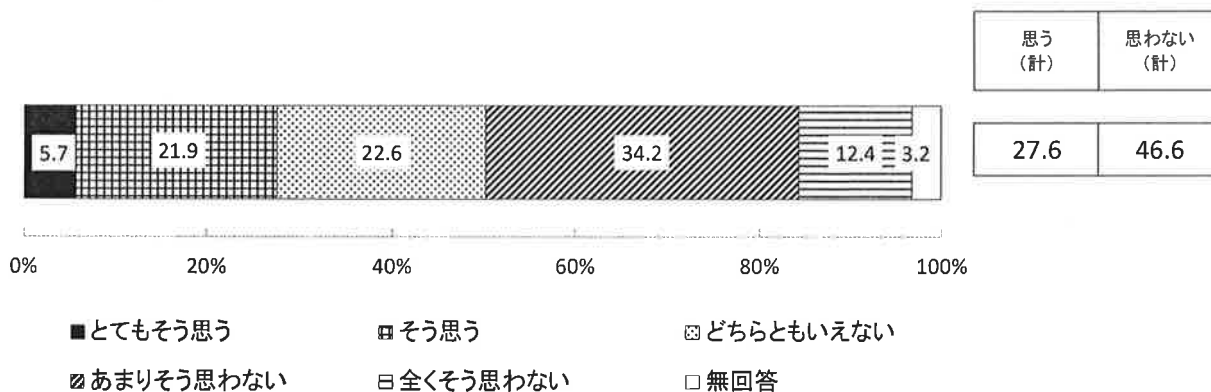


朝食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が49.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」(20.8%)、「週に2~3日」(10.1%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「ほとんど毎日」は4.9ポイント低下している。

夕食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が63.1%と最も高く、次いで「週に4~5日」(10.8%)、「週に2~3日」(10.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「ほとんど毎日」は1.9ポイント低下している。

8-6. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向

Q8-6 地域や所属コミュニティ（職場等を含む）での食事会等の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。（〇は1つ）



地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『思う (計)』は27.6%、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない (計)』は46.6%となっている。

8-7. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況

【Q8-6で「1. とてもそう思う」又は「2. そう思う」と回答した方に】 (n=461)

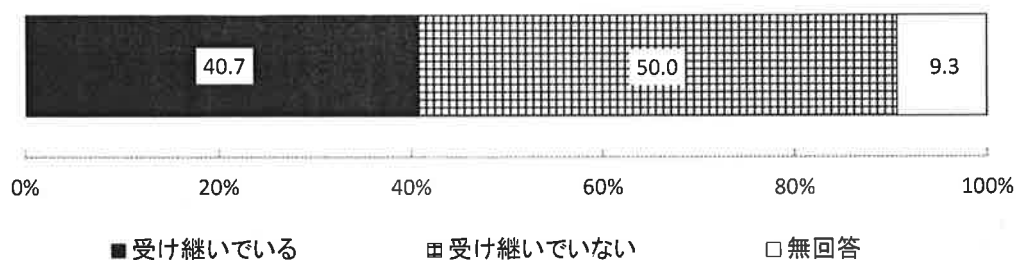
Q8-7 あなたは、過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか。（〇は1つ）



Q8-6で「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答された方に過去1年間の地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況について質問すると、「参加した」は79.0%、「参加していない」は21.0%となっている。

8-8. 料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況

Q8-8 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つ)

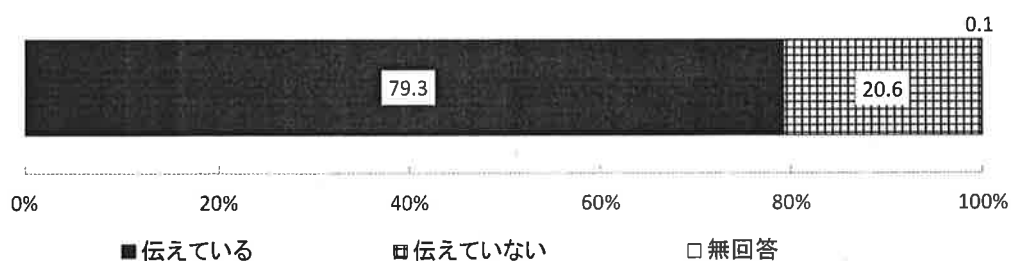


料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況について、「受け継いでいる」は40.7%、「受け継いでいない」が50.0%となっている。

8-9. 料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況

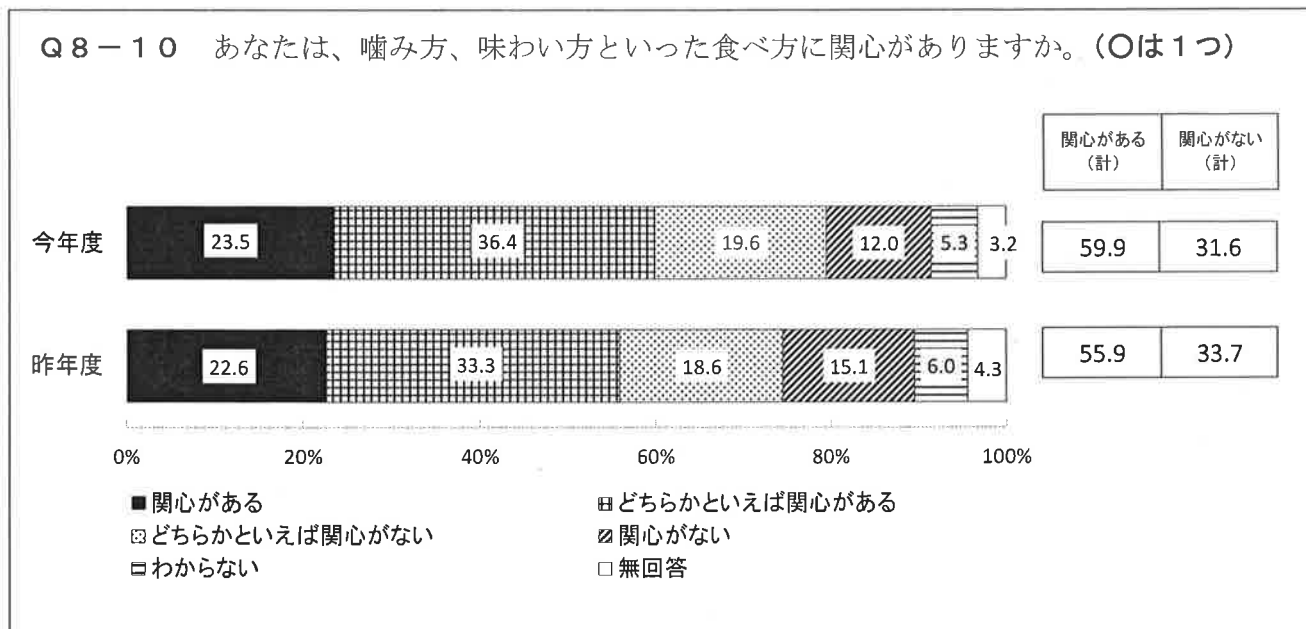
【Q8-8で「1. 受け継いでいる」と回答した方に】 (n=680)

Q8-9 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代(子供や孫を含む)に対して伝えていきますか。(〇は1つ)



Q8-8で「受け継いでいる」と回答された方に、料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況について質問すると、「伝えている」は79.3%、「伝えていない」は20.6%となっている。

8-10. 食べ方への関心度



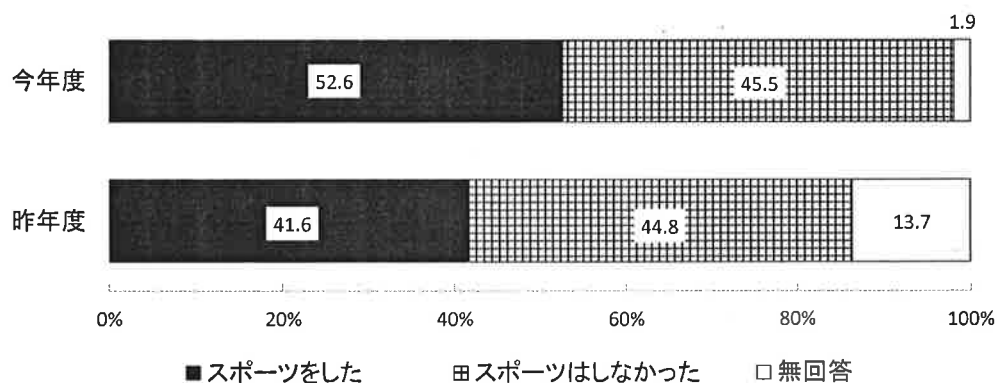
噛み方、味わい方といった食べ方への関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は59.9%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は31.6%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は4.0ポイント上昇している。

9. スポーツ活動の実施状況について

9-1. 過去1年間でのスポーツの実施状況

Q9-1 あなたは、過去1年間に、スポーツを行いましたか。(〇は1つ)

※「スポーツ」：陸上競技・水泳・野球・サッカー等の他、グラウンドゴルフ・インディアカ等のレクリエーションスポーツ、ハイキング・釣り等の野外活動及びウォーキング・軽い体操を含みます

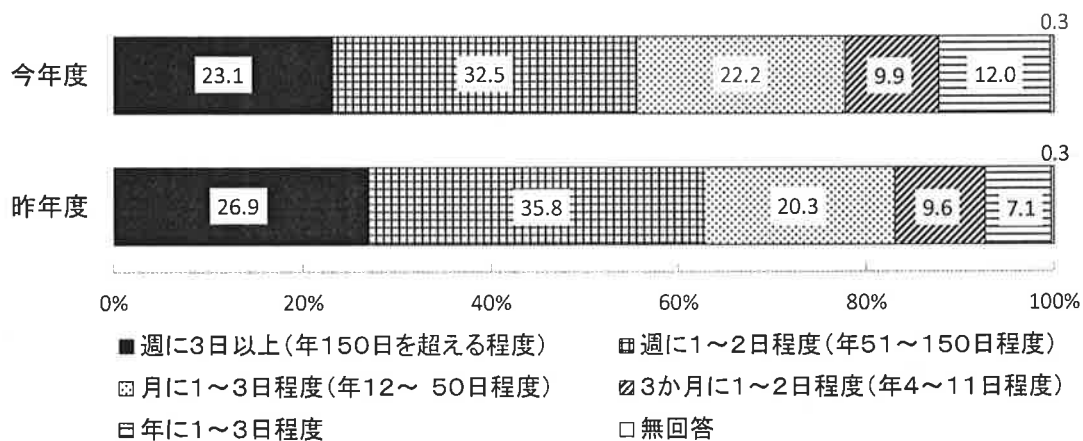


過去1年間のスポーツ実施状況について、「スポーツをした」は52.6%、「スポーツはしなかった」は45.5%となっている。昨年度と比較すると、「スポーツをした」が11.0ポイント上昇している。

9-2. スポーツの実施頻度

Q9-1で「1. スポーツをした」と回答した方に】 (n=878)

Q9-2 どれくらいの頻度でスポーツを行いましたか。(〇は1つ)

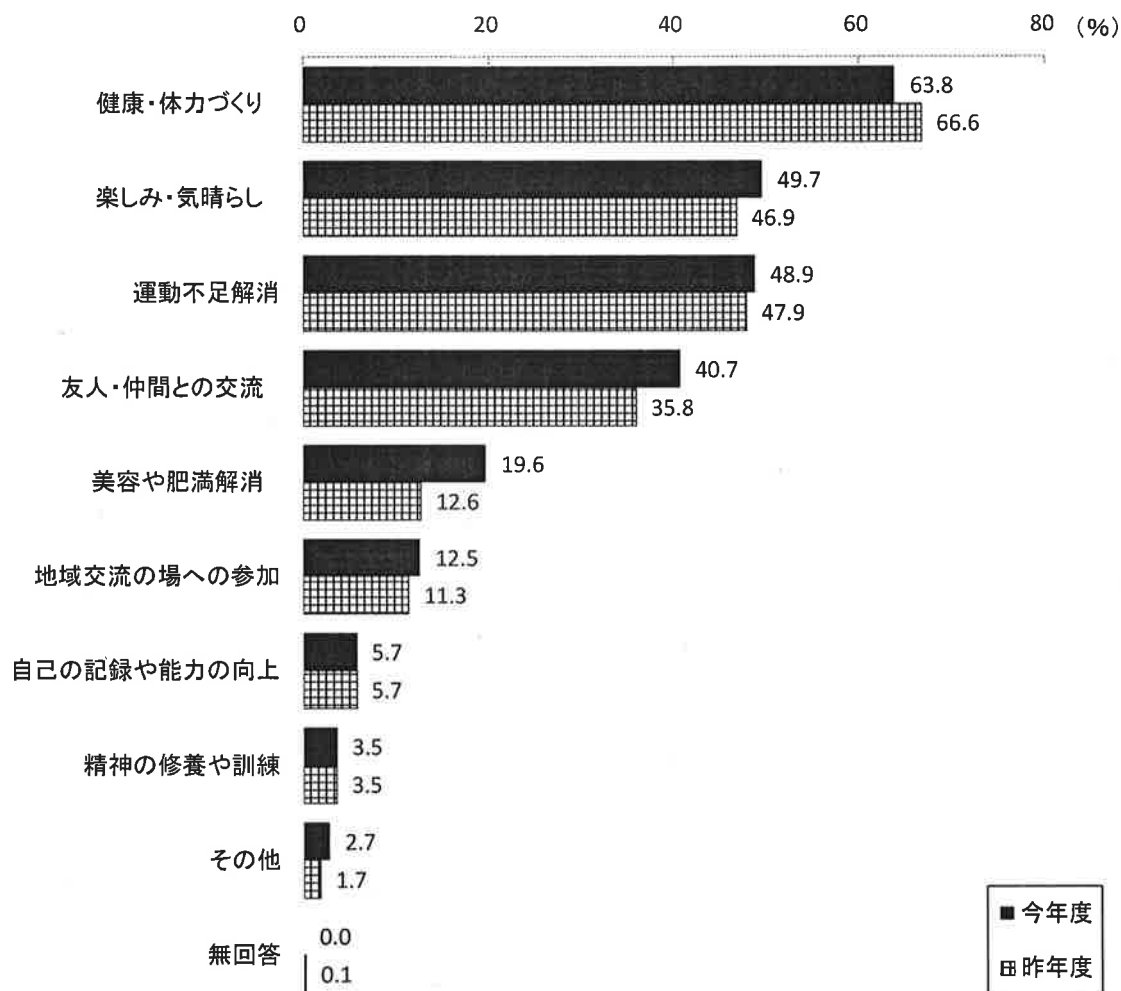


Q9-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツ実施頻度について質問すると、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が32.5%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」(23.1%)、「月に1~3日程度(年12~50日程度)」(22.2%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が3.8ポイント低下している。

9-3. スポーツを行った理由

【Q9-1で「1. スポーツをした」と回答した方に】 (n=878)

Q9-3 スポーツを行った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

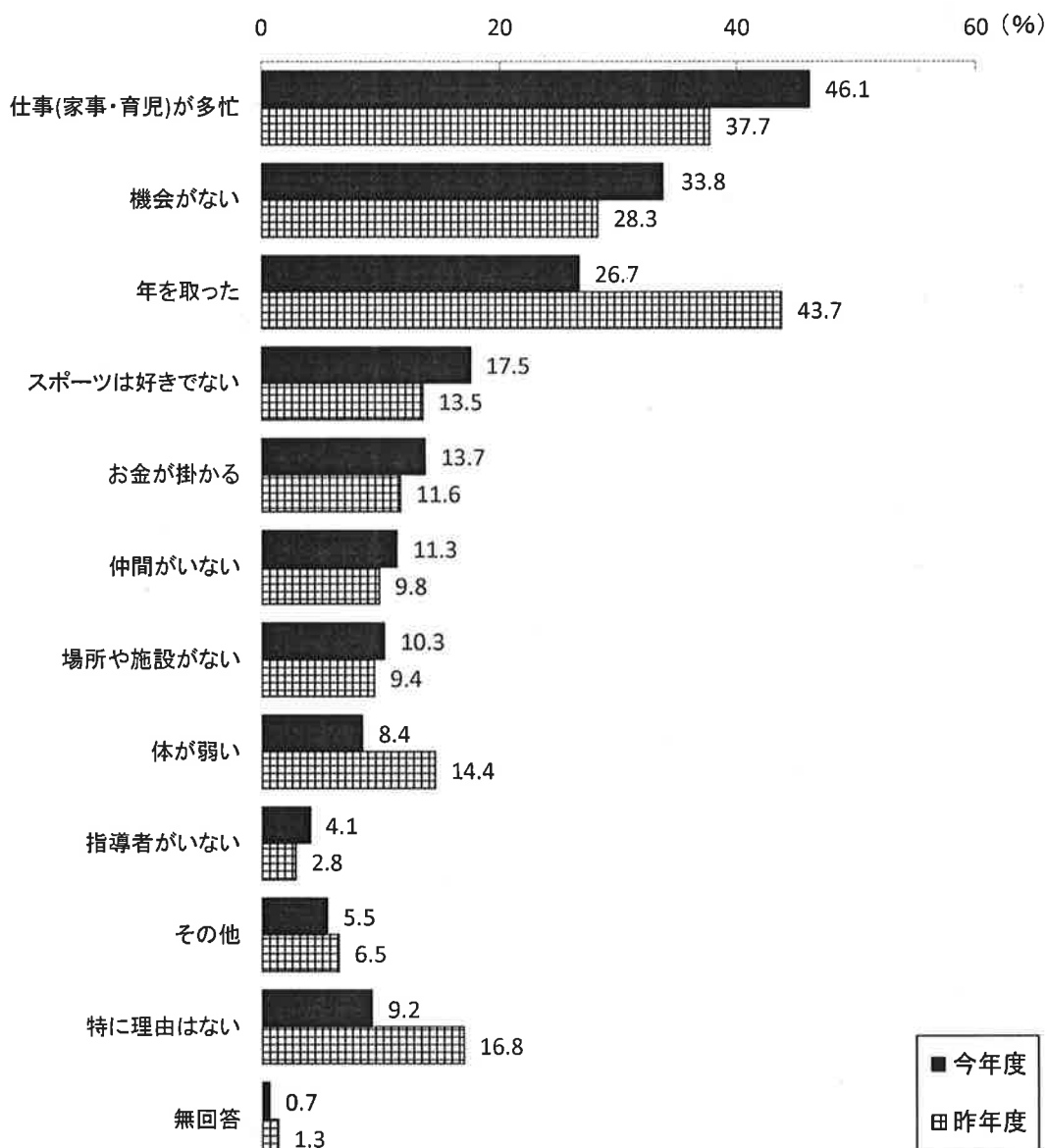


Q9-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツを行った理由について質問すると、「健康・体づくり」が63.8%と最も高く、次いで「楽しみ・気晴らし」(49.7%)、「運動不足解消」(48.9%)、「友人・仲間との交流」(40.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「友人・仲間との交流」は4.9ポイント上昇している。

9-4. スポーツを行わなかった理由

【Q9-1で「2. スポーツはしなかった」と回答した方に】 (n=760)

Q9-4 スポーツを行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)



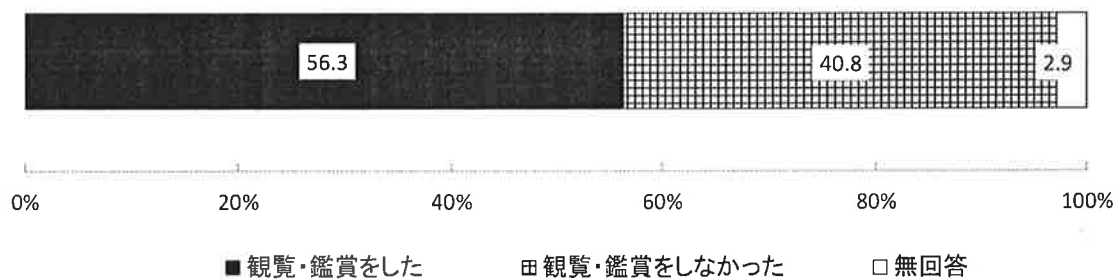
Q9-1で「スポーツはしなかった」と回答された方に、スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事(家事・育児)が多忙」が46.1%で最も高く、次いで「機会がない」(33.8%)、「年を取った」(26.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「仕事(家事・育児)が多忙」は8.4ポイント上昇し、「年を取った」は17.0ポイント低下している。

10. 文化芸術活動について

10-1. 過去1年間の文化芸術の観覧・鑑賞状況

Q10-1 あなたは、過去1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに直接出向いて、文化芸術を観覧・鑑賞しましたか。(〇は1つ)

※県外を含みます

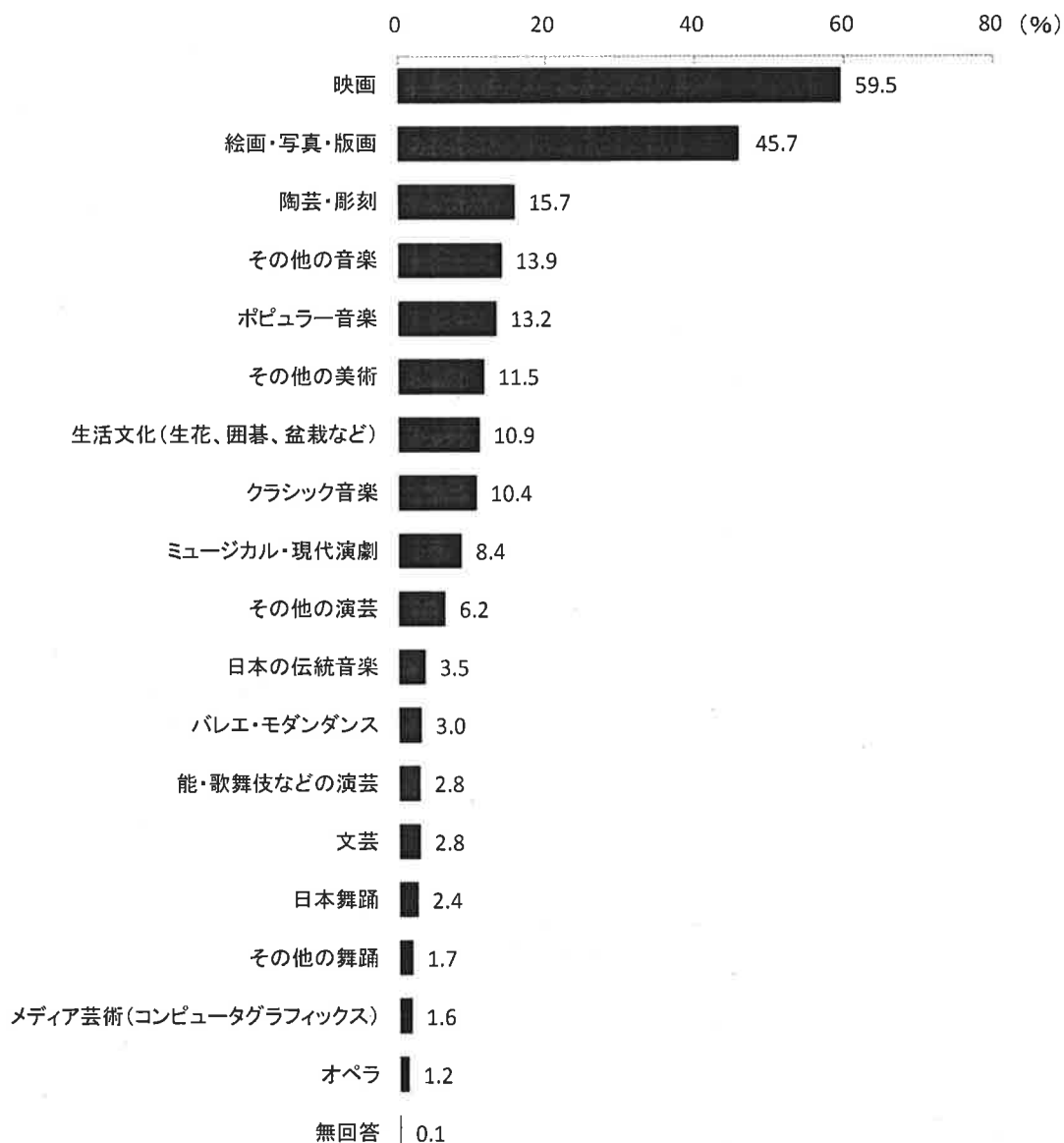


過去1年間の文化芸術の観覧・鑑賞状況について、「観覧・鑑賞をした」は56.3%、「観覧・鑑賞をしなかった」は40.8%となっている。

10-2. 文化芸術の観覧・鑑賞内容

【Q10-1で「1. 観覧・鑑賞をした」と回答した方に】 (n=940)

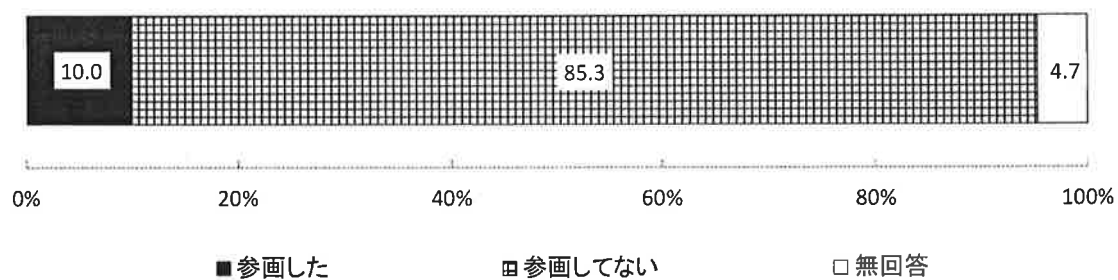
Q10-2 次に掲げる分野から観覧・鑑賞したものを選んでください。(〇はいくつでも)



Q10-1で「観覧・鑑賞をした」と回答された方に、観覧・鑑賞したものについて質問すると、「映画」が59.5%と最も高く、次いで「絵画・写真・版画」(45.7%)、「陶芸・彫刻」(15.7%)、「その他の音楽」(13.9%)などの順となっている。

10-3. 過去1年間での文化芸術の参画状況

Q10-3 あなたは、過去1年間に、音楽、演劇、美術等を習ったり、演奏会への出演や展示会への出品などを行ったりした経験がありますか。(〇は1つ)



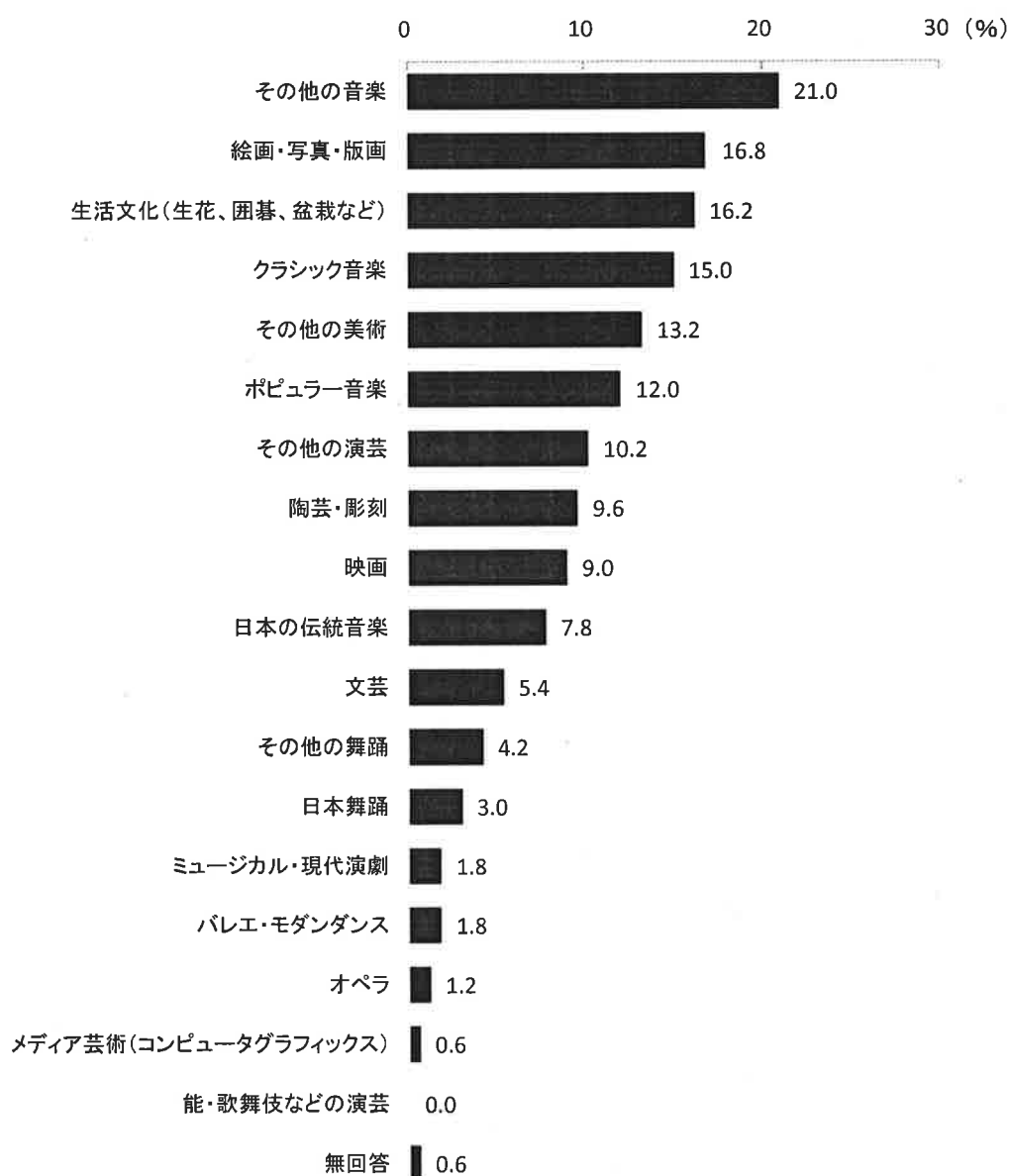
過去1年間の文化芸術の参画状況について、「参画した」は10.0%、「参画していない」は85.3%となっている。

10-4. 文化芸術の参画内容

【Q10-3で「1. 参画した」と回答した方に】 (n=167)

Q10-4 次に掲げる分野から参画したものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

※創作・表現活動のほか、体験活動や企画プロデュース、ボランティア等の支援活動を含みます

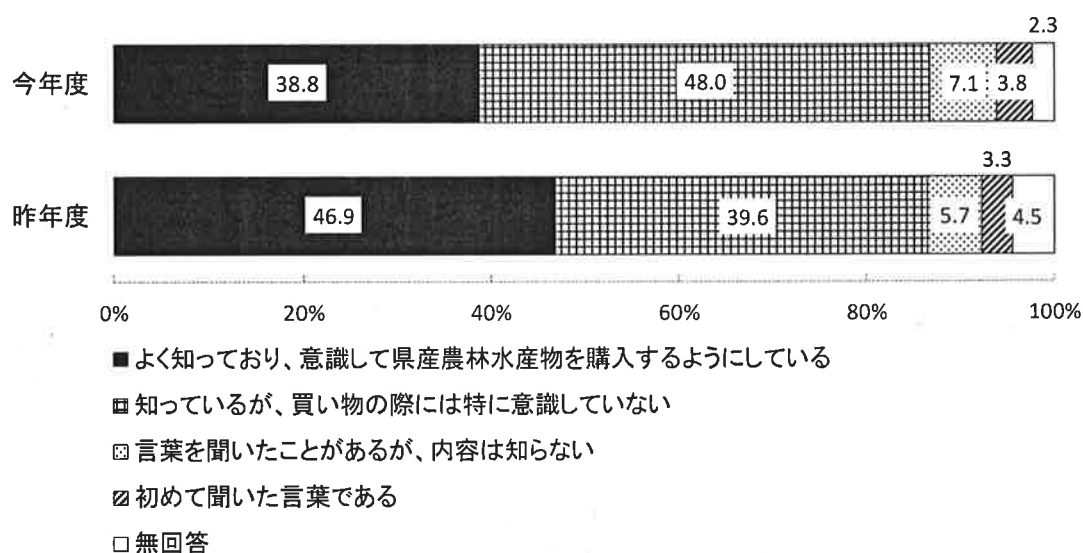


Q10-3で「観覧・鑑賞をした」と回答された方に、参画したものについて質問すると、「その他の音楽」が21.0%と最も高く、次いで「絵画・写真・版画」(16.8%)、「生活文化(生花、囲碁、盆栽など)」(16.2%)、「クラシック音楽」(15.0%)などの順となっている。

1.1. 地産・地消の推進について

1.1-1. 「地産・地消」の認知状況

Q11-1 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。
(〇は1つ)

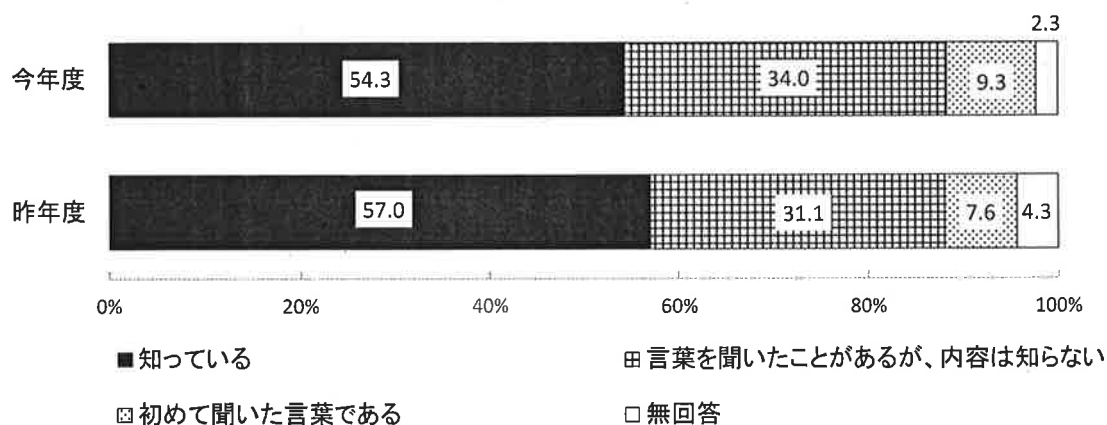


「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が48.0%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」(38.8%)、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(7.1%)、「初めて聞いた言葉である」(3.8%)の順となっている。昨年度と比較すると、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が8.1ポイント低下し、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が8.4ポイント上昇している。

11-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

Q11-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など70商品以上が登録されています。

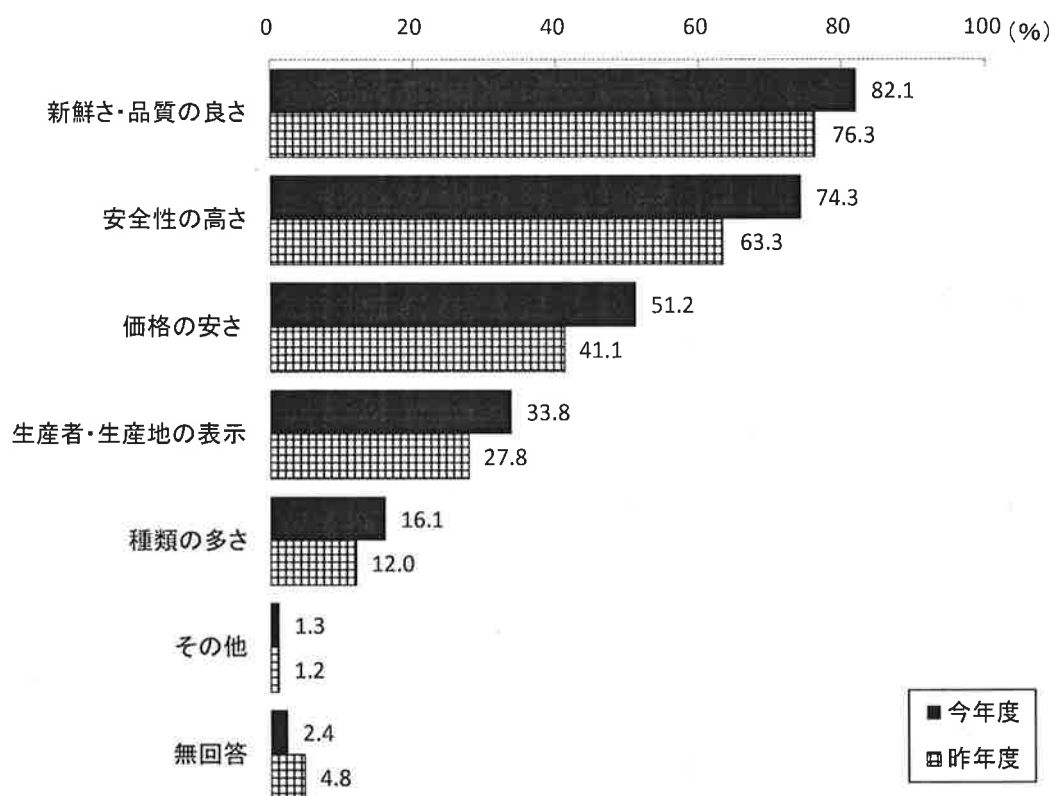
あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)



「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が54.3%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(34.0%)、「初めて聞いた言葉である」(9.3%)の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が2.7ポイント低下している。

11-3. 県産農林水産物に期待すること

Q11-3 あなたは、県産農林水産物にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

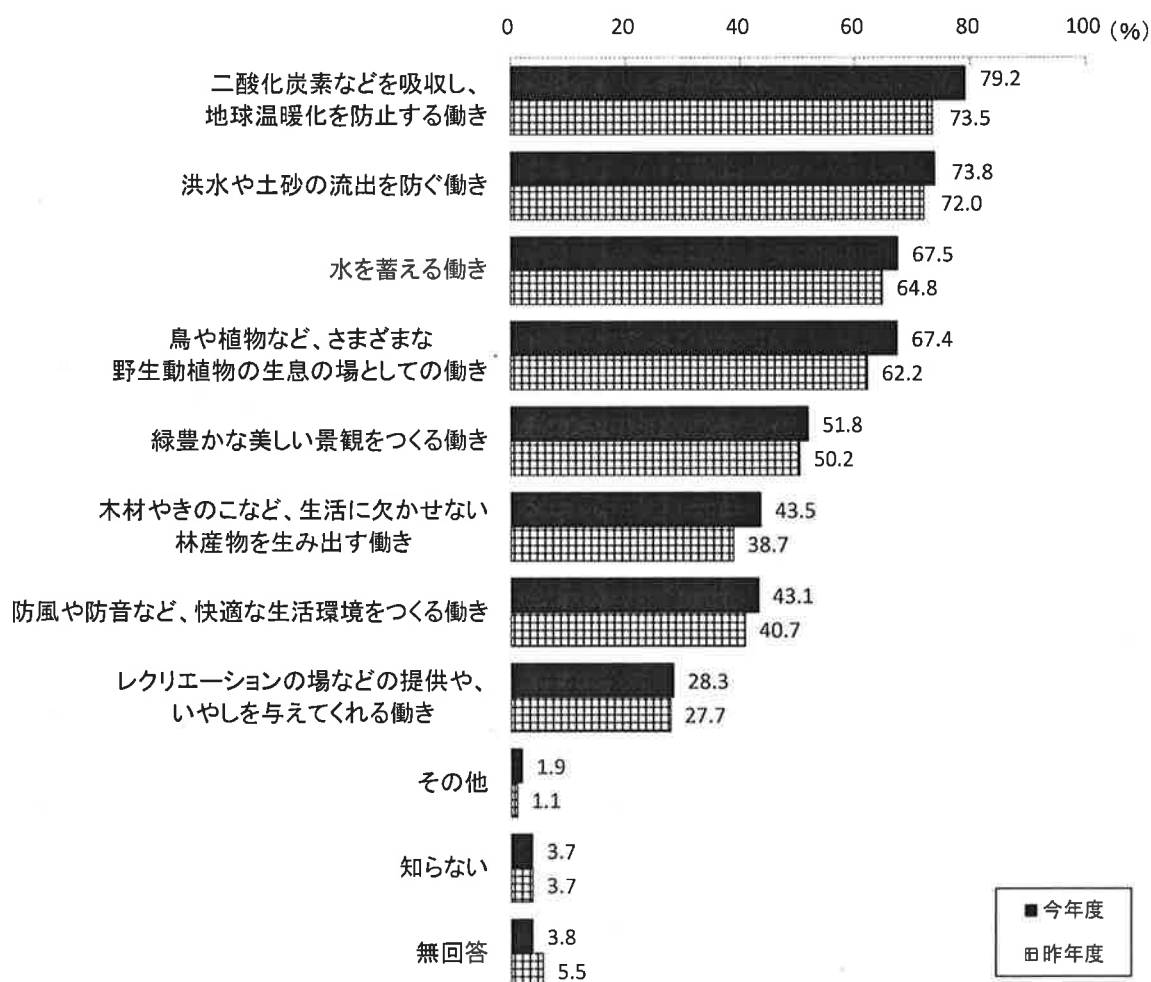


県産農林水産物に期待することについて、「新鮮さ・品質の良さ」が82.1%と最も高く、次いで「安全性の高さ」(74.3%)、「価格の安さ」(51.2%)、「生産者・生産地の表示」(33.8%)、「種類の多さ」(16.1%)の順となっている。昨年度と比較すると、「新鮮さ・品質の良さ」が5.8ポイント上昇するなど、全項目で4.1ポイント以上上昇している。

12. やまぐち森林づくり県民税について

12-1. 森林の持っている働き

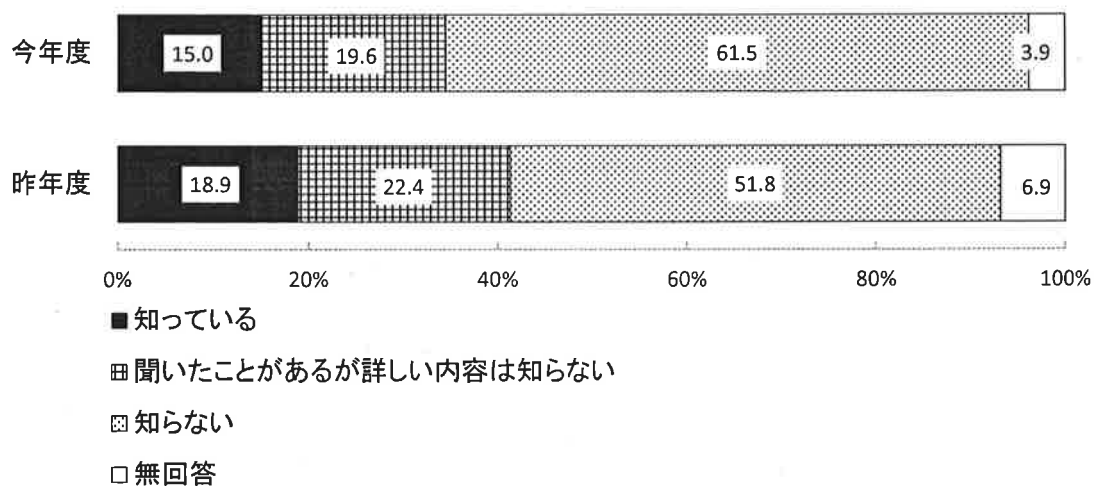
Q12-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」が79.2%で最も高く、次いで「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」(73.8%)、「水を蓄える働き」(67.5%)、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」(67.4%)、「緑豊かな美しい景観をつくる働き」(51.8%)、「木材やきのこなど、生活に欠かせない林産物を生み出す働き」(43.5%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」は5.7ポイント上昇し、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」は5.2ポイント上昇している。

12-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q12-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)

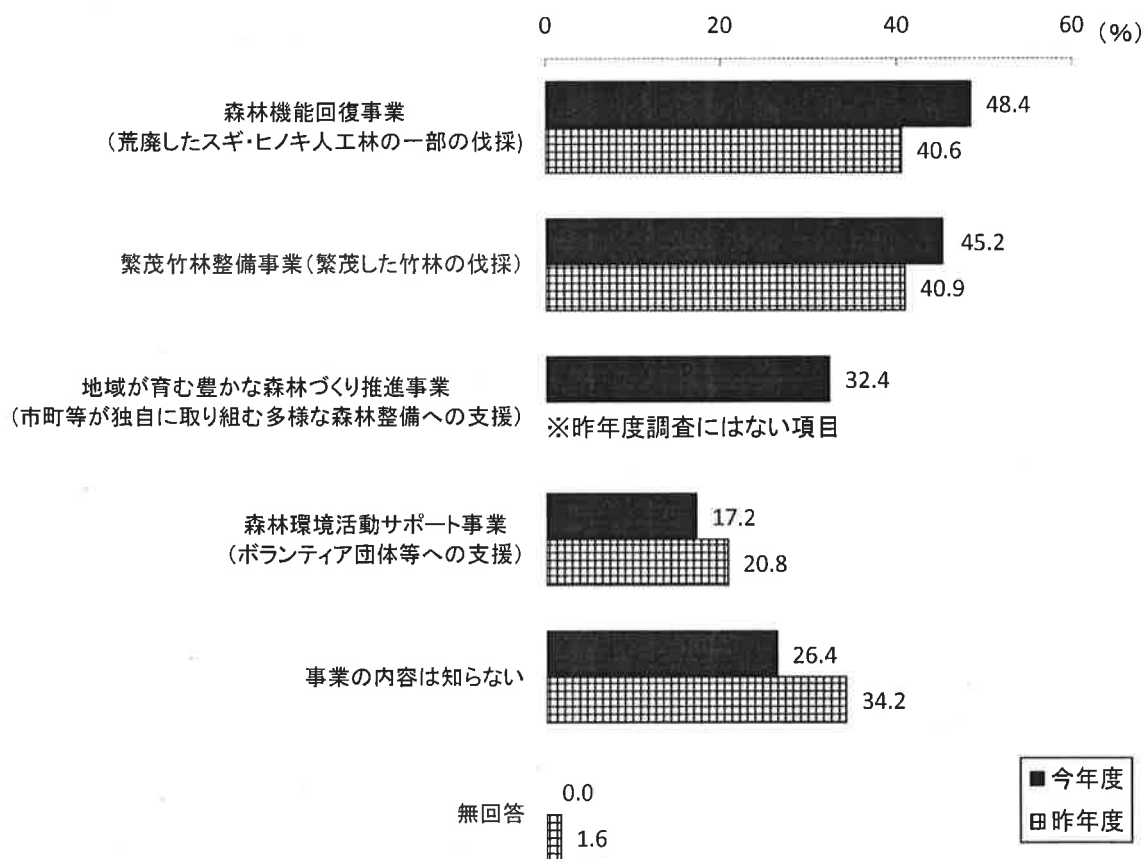


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知らない」が61.5%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」(19.6%)、「知っている」(15.0%)の順となっている。昨年度と比較すると、「知らない」が9.7ポイント上昇している。

12-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q12-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=250)

Q12-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

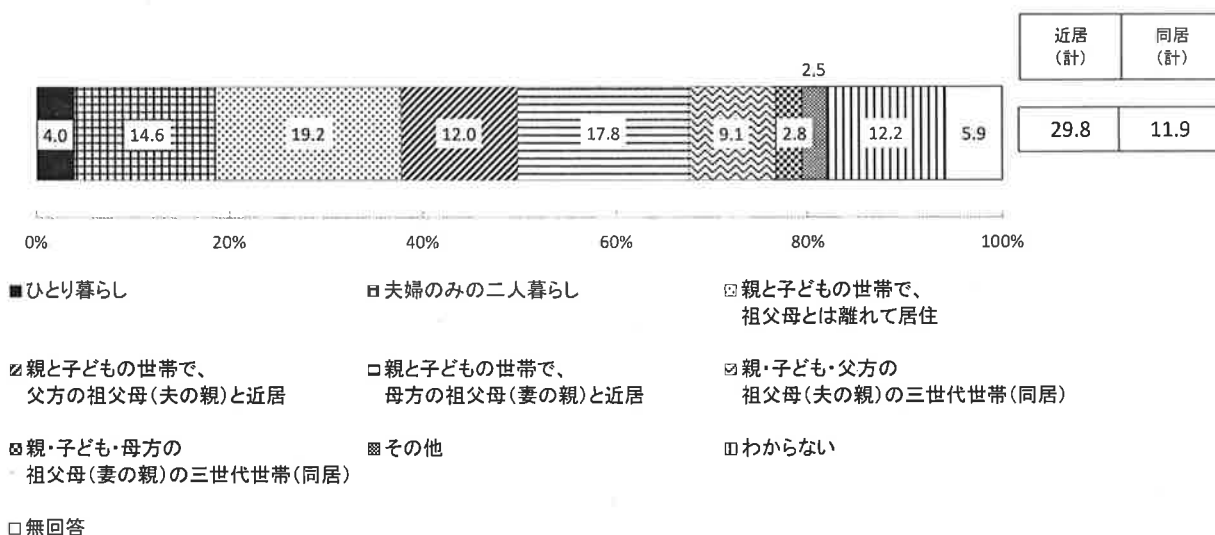


Q12-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、知っている「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が48.4%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」（45.2%）、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」（32.4%）、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」（17.2%）の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」は7.8ポイント上昇し、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」は3.6ポイント低下している。

13. 三世同居・近居について

13-1. 理想の住まい方

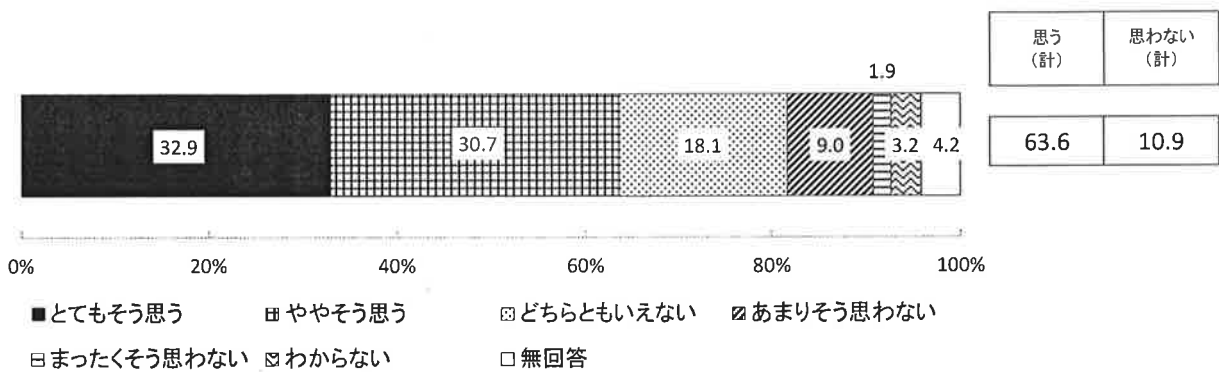
Q13-1 あなたにとって、理想の住まい方とは、どのようなものですか。(〇は1つ)



理想の住まい方について、「親と子どもの世帯で、父方の祖父母（夫の親）と近居」と「親と子どもの世帯で、母方の祖父母（妻の親）と近居」を合わせた『近居（計）』が29.8%と最も多く、次いで「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて居住」（19.2%）、「夫婦のみの二人暮らし」（14.6%）、「親・子ども・父方の祖父母（夫の親）の三世帯世帯（同居）」と「親・子ども・母方の祖父母（妻の親）の三世帯世帯（同居）」を合わせた『同居（計）』（11.9%）などの順となっている。

13-2. 子どもが小学校終了前までの間の祖父母の手助け意向

Q13-2 子どもが小学校終了前までの間、祖父母が、育児や家事の手助けをすることが望ましいですか。(〇は1つ)

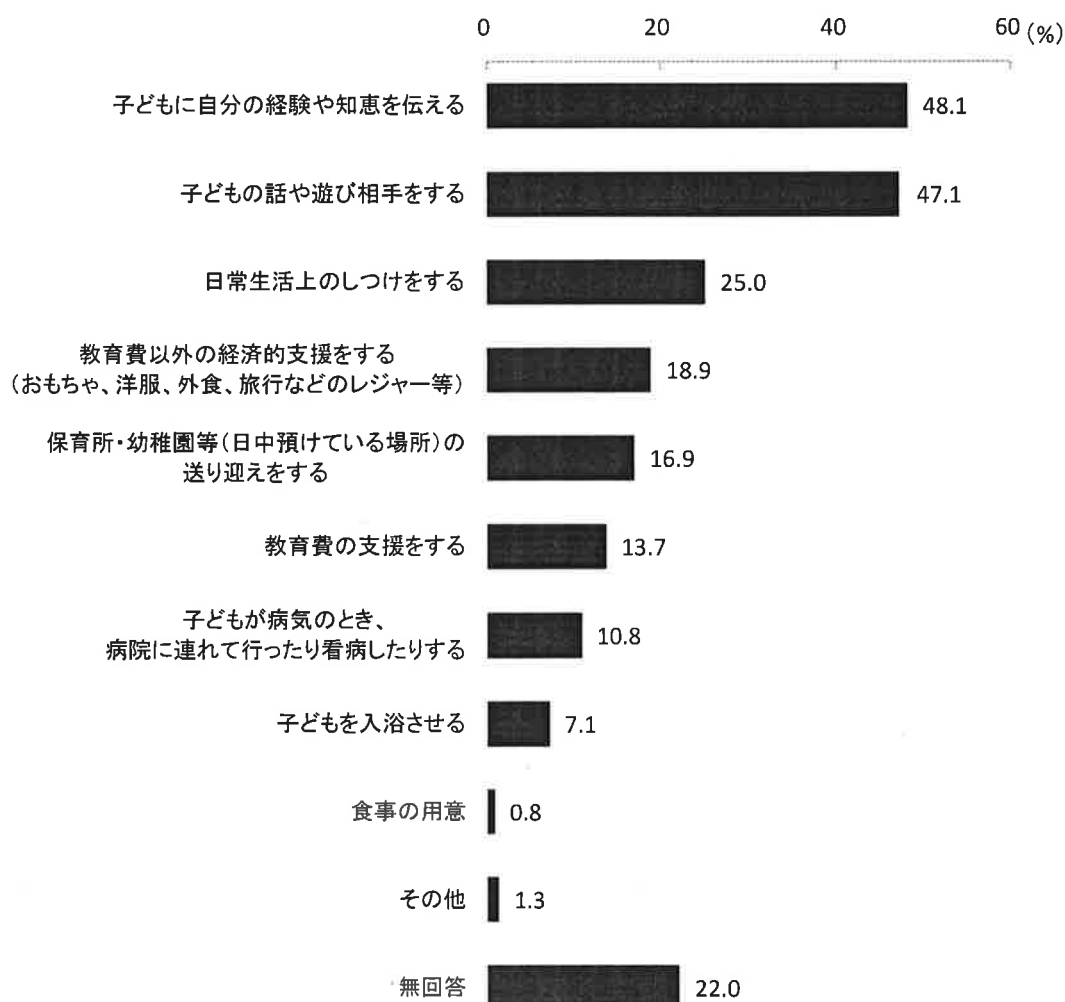


子どもが小学校終了前までの間、祖父母の手助け意向について、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』は63.6%、「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない(計)』は10.9%となっている。

13-3. 祖父母に期待する手助け

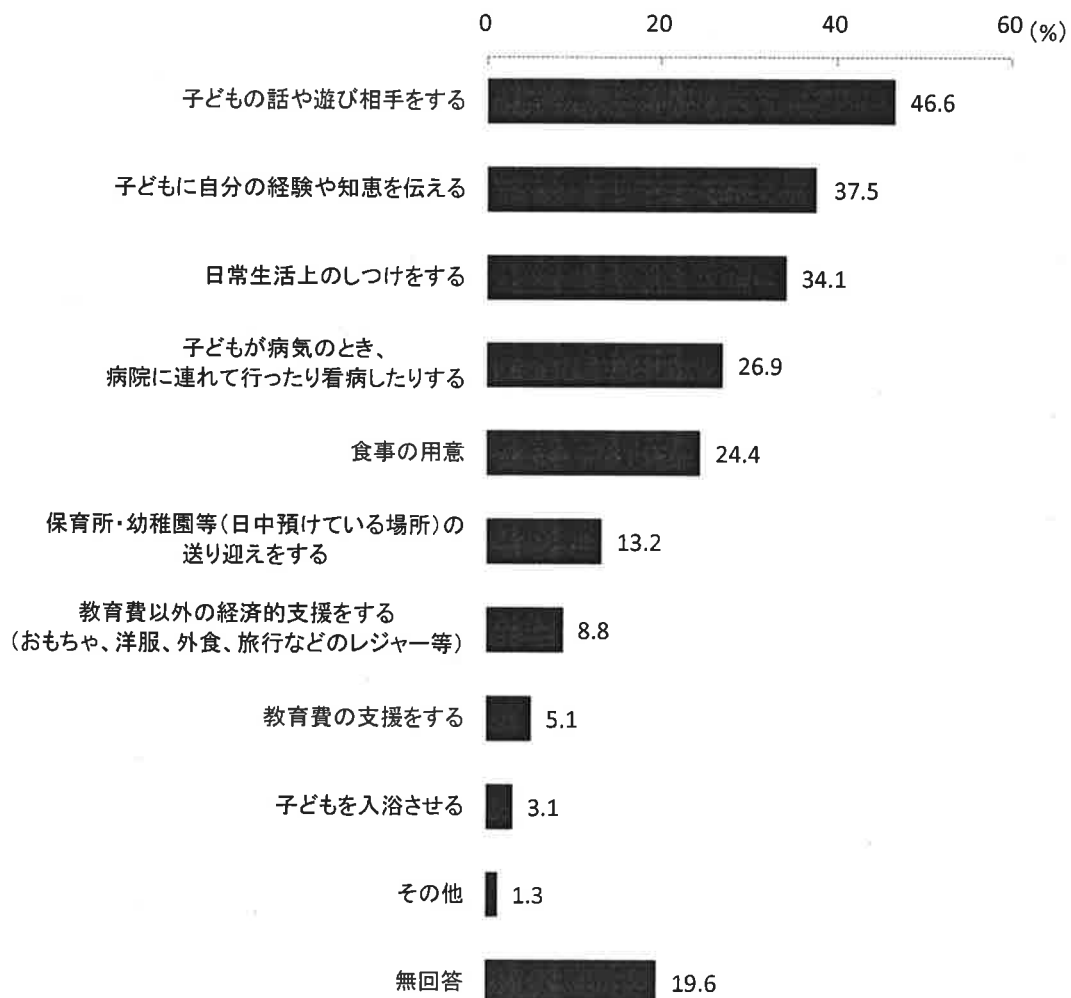
Q13-3 祖父母に期待する手助けについてお答えください。

(ア) 祖父 (〇は3つまで)



祖父に期待する手助けについて、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」が48.1%と最も多く、次いで「子どもの話や遊び相手をする」(47.1%)、「日常生活上のしつけをする」(25.0%)、「教育費以外の経済的支援をする(おもちゃ、洋服、外食、旅行などのレジャー等)」(18.9%)、「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」(16.9%)、「教育費の支援をする」(13.7%)、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(10.8%)などの順となっている。

(イ) 祖母 (〇は3つまで)

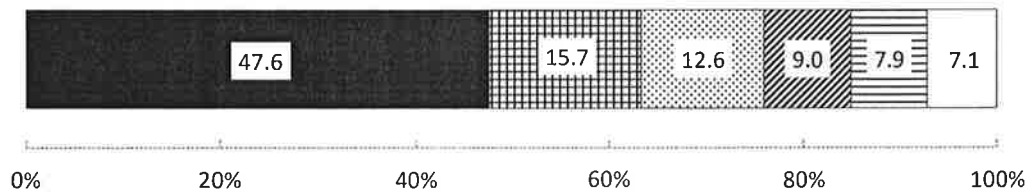


祖母に期待する手助けについて、「子どもの話や遊び相手をする」が46.6%と最も多く、次いで「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(37.5%)、「日常生活上のしつけをする」(34.1%)、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(26.9%)、「食事の用意」(24.4%)、「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」(13.2%)、「教育費以外の経済的支援をする(おもちゃ、洋服、外食、旅行などのレジャー等)」(8.8%)などの順となっている。

13-4. 現在の住まい方

【小学校終了前の子どもがいる世帯の方に】 (n=420)

Q13-4 あなたの現在の住まい方についてお答えください。(〇は1つ)



■ 親と子どもの世帯で、
祖父母とは離れて居住

▨ 親と子どもの世帯で、
父方の祖父母(夫の親)と近居

▩ 親と子どもの世帯で、
母方の祖父母(妻の親)と近居

▤ 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の
三世代世帯(同居)

□ 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の
三世代世帯(同居)

□ その他

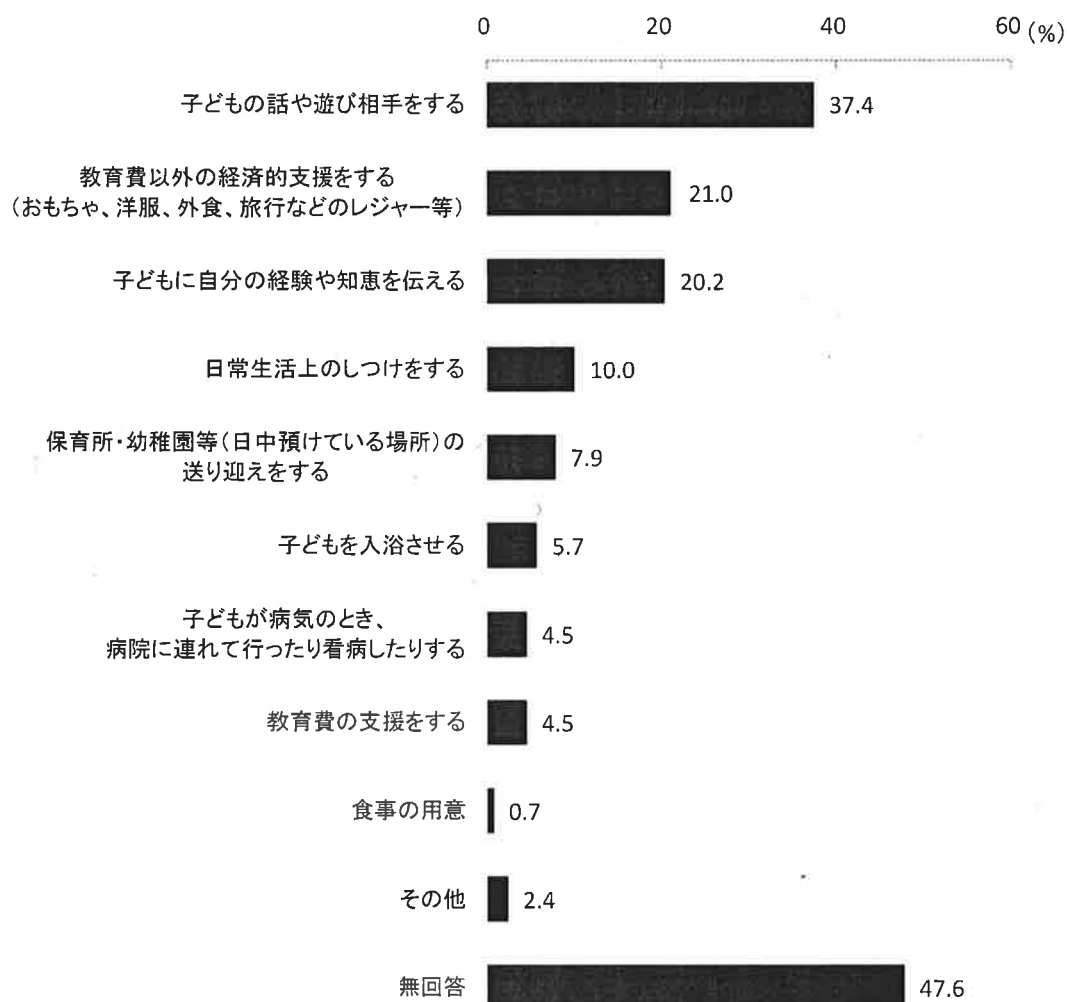
現在の住まい方について、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて居住」が47.6%と最も多く、次いで「親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居」(15.7%)、「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居」(12.6%)、「親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世代世帯(同居)」(9.0%)、「親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世代世帯(同居)」(7.9%)の順となっている。

13-5. 祖父母にしてもらっている手助け

【小学校終了前の子どもがいる世帯の方に】 (n=420)

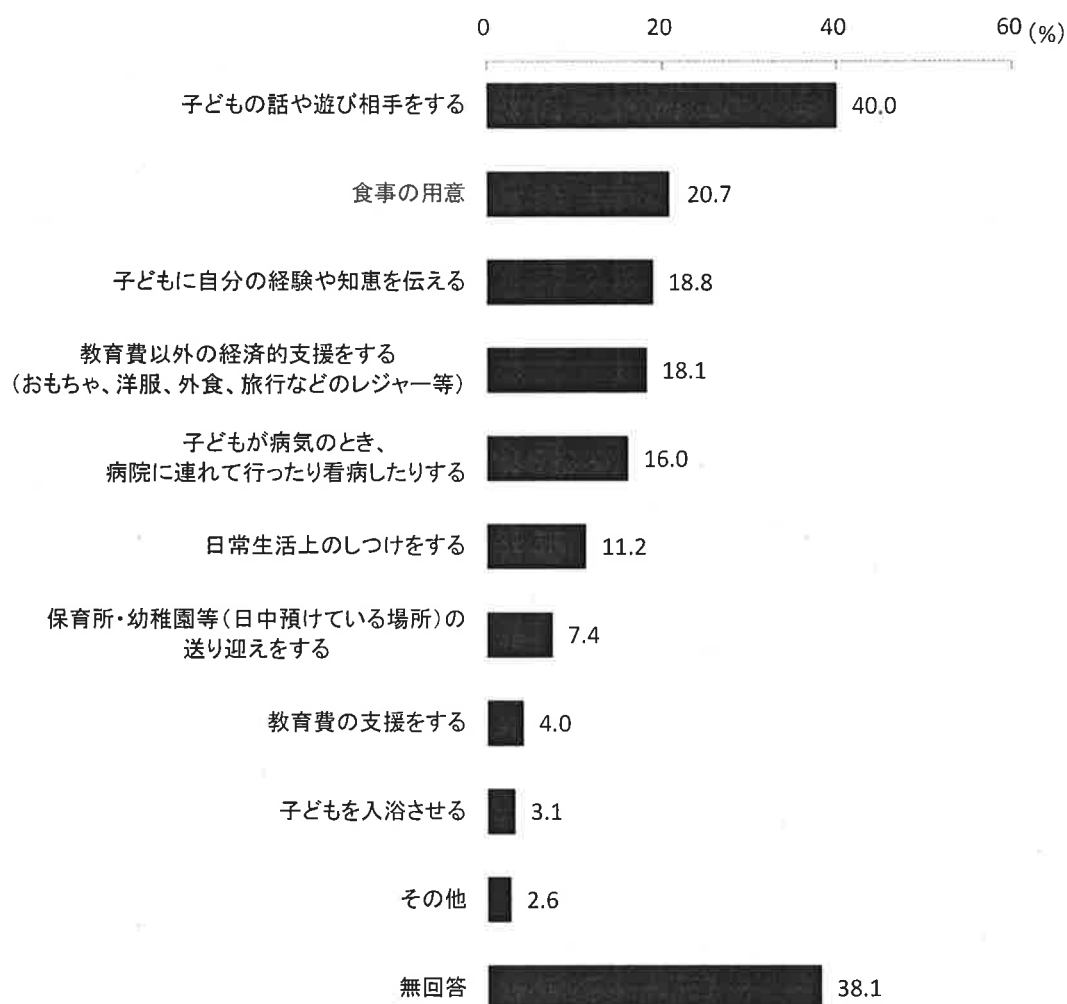
Q13-5 祖父母にしてもらっている手助けについてお答えください。

(ア) 祖父 (〇は3つまで)



祖父にしてもらっている手助けについて、「子どもの話や遊び相手をする」が37.4%と最も多く、次いで、「教育費以外の経済的支援をする(おもちゃ、洋服、外食、旅行などのレジャー等)」(21.0%)、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(20.2%)、「日常生活上のしつけをする」(10.0%)、「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」(7.9%)、「子どもを入浴させる」(5.7%)、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(4.5%)などの順となっている。

(イ) 祖母 (〇は3つまで)

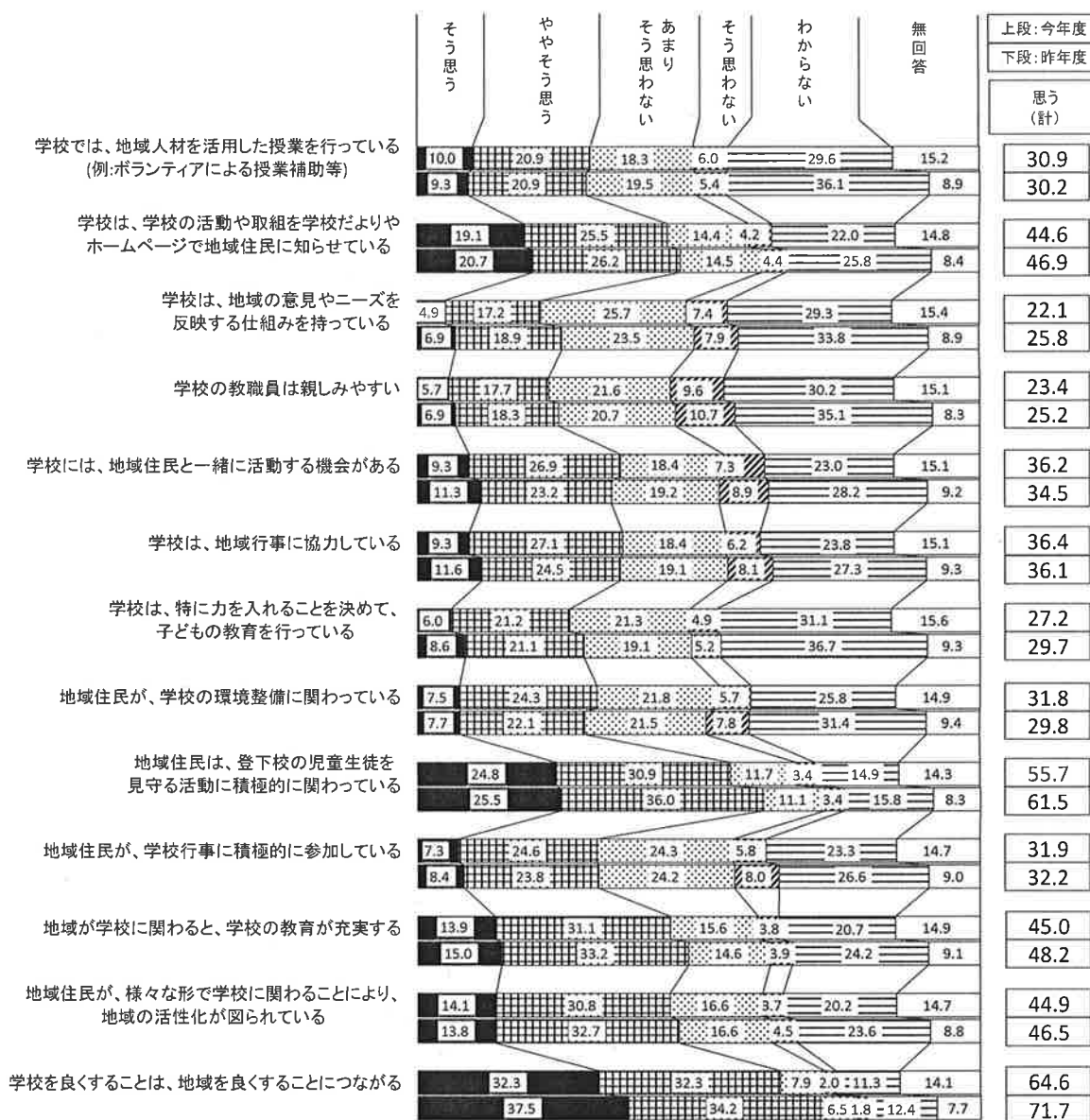


祖母にしてもらっている手助けについて、「子どもの話や遊び相手をする」が40.0%と最も多く、次いで、「食事の用意」(20.7%)、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(18.8%)、「教育費以外の経済的支援をする(おもちゃ、洋服、外食、旅行などのレジャー等)」(18.1%)、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(16.0%)、「日常生活上のしつけをする」(11.2%)、「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」(7.4%)などの順となっている。

14. コミュニティ・スクールについて

14-1. 地域と学校との関係

Q14-1 あなたがお住まいの地域と地域にある学校（小学校、中学校いずれについてでも可）との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。（〇はそれぞれ1つずつ）



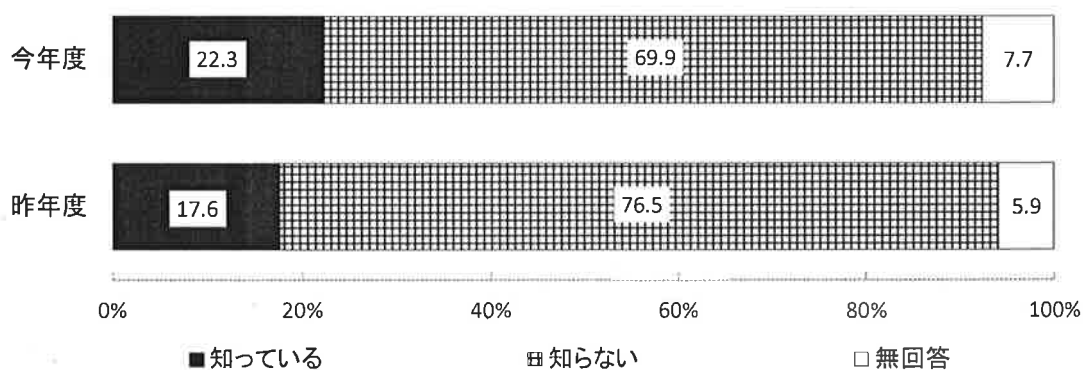
上記のグラフの質問項目は、平成25年度兵庫教育大学「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」の研究テーマ「スクール・コミュニティに向けた学校のマネジメント力強化に関する調査研究」の質問項目を参考とした

地域と学校との関係について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、昨年度と同様に「学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる」が、64.6%と最も高く、次いで、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている」(55.7%)、「地域が学校に関わると、学校の教育が充実する」(45.0%)などの順になっている。

また、地域と学校が協働する取組が進んでいる。（「学校では、地域人材を活用した授業を行っている」「学校には、地域住民と一緒に活動する機会がある」等）

14-2. コミュニティ・スクールの認知状況

Q14-2 山口県では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進しています。あなたは、この「コミュニティ・スクール」をご存じですか。
(〇は1つ)



コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」は22.3%となっており、昨年度と比較すると、「知っている」は4.7ポイント上昇している。